

民俗文化財調査表

集 計 表

地区	寺社		上着信仰・風習等		講		祭り・法要		水利		民謡等	
	記録数	現存数	記録数	現存数	記録数	現存数	記録数	現存数	記録数	現存数	記録数	現存数
私部	1	1	16	6	6	0	5	4	2	1		
倉治	3	2	27	12	6	0	3	3	2	1		
郡津	3	2	17	1	1	0	1	1	2	1		
森	1	1	11	2	1	0	2	2	1	1		
私市	4	4	20	12	4	2	2	2	1	1	1	1
寺	2	1	21	8	4	0	2	1	1	1		
傍示	2	2	10	3	0	0	2	1	1	1		
果田	1	1	12	5	6	0	16	8	2	1		
全地区												19
総数	17	14	134	49	28	2	33	22	12	8	20	1
記録総数	244											
現存総数	96											

民俗文化財調査表1

番号	地区	名称	種類	町史・町史等に記載された内容	令和9年現在
1	私部	私部住吉神社	神社	<p>町史・町史等に記載された内容</p> <p>【交野町史】(2巻308頁) 住吉大神・神宮皇后を祭神とする。10月16日を祭日とするが、最近では、16日以降の日曜日になっている。江戸時代の終わりまで、宮寺として現光寺があった。現光寺跡は現在の社務所となっている。</p> <p>(1巻456頁) 住吉神社の申程に舞台をもち上げ、それを向かって東西両側には村中七座がならんだ。元和9年(1623)の記録では角道座・宮本座・僧座・大北座(また荻田座)・其六座・(後に奥田座)・大矢座・納治屋座の七座となっているが、その後元禄時代には分北座・矢寺座が記録せられ、また一座には無住(座人なし)のものをもちできてくる。元禄13年(1700)の定め書5か条となり、「……つまりこの宮の神さまの世話をす社僧(神主)を第一とし、村の役職(代官・住屋・年番約)にあるものがそれにつき、一般の座人に昔から私部の住人の家を継ぐものでなければならぬという、まったく排他的な伝統は、この頃どこかの村でもみな同じであった。私部は大村だから、お宮には宮寺現光寺(現在の社務所)があって、そこに住む社僧が富一切のお守りをしていて、したがって座中から神主をする必要がなく、神主になるうと争うものはなかったが、……座構の位置を、……座殿近くにとりたりという争いが絶えなかったようである。[寛延元年(1748)、享和3年(1803)などに座席争いあり]」。</p> <p>【昭和11年宮座調査】 神職、世襲、違います。 氏子。区域、現在は私部部落の産土神社であります。明治15年頃までは、近郷16ヶ郷の郷地にて、現在でも4月10日奉祭を又、郷社祭とよばれて残って居ります。郷社制度の時は各村より総代が式典に参列した由、今に近郷部諸名人の提灯もあり。440戸あり。婿入り、村一般の有力者(村長、区長、町総代)、神社などへ挨拶に廻ります(神社で報告祭等はあります)。氏子内の階級、明治維新以前には座があり、座席の上下等については中々中々厳しかった由です。</p> <p>祭礼。三大祭、祈念・不定、新嘗・不定、中祭、歳日祭、元始祭、紀元節祭、天辰節祭、春祭、又一名、郷社祭4月19日、夏祭(大祓)6月13日、半夏生祭毎年(7月2日或は7月3日)。</p> <p>宮座。現在、座の書類を集めておられます。元和9年夏9月未代(口)の席、略図等もあります。其当時、角尾座・僧座・甚六・粟や・からや・大矢・大北、宮本各座見えて居ります。文化元年より3年まで座口(相論が)相起こり、当村無量光寺に移して一礼同寺に預し事にて、その時の一礼同寺に現存するの由。其の中、宮本座の由等も当時あり、図面もあり、現存。最近、慶心頃の座の献立(御馳走)表等も現存す。</p>	<p>神社・祭礼ともに現存している。</p>
2	私部	福尚講	講	<p>【交野町史】 福尚講の人達で初の午の日に集まり、赤飯で「にぎり」を作り、夕方から「せんぎよ、せんぎよ、野せんぎよ」と叫びながら野原において廻る。</p> <p>【市史民俗編】 初午(2月初の午の日)。福尚講の人たちが集まって、当番の家で福尚祭をした。(中略)北田藤造氏宅(代官座敷)の西北角にお福尚さんが祭つてある。この日にははだだんは入れない屋敷の中に入って、赤飯の「にんにん(おにぎり)」をもちつて嬉しかった。(奥野平次氏)</p>	<p>【北田家】 講は活動していないようである。 北田家住宅のお福尚さんは現在も祭られている。</p>
3	私部	地蔵講	講	<p>【石鑑】53頁、S49.2.28 「上の山」(うえのやま)の東高野街道と山根街道の辻に建っている地蔵さんに次のような縁がある。向かって右「私部村地蔵講中」。左「享保十乙巳年三月廿四日」。下「法界」。</p> <p>【石鑑】133頁、S51.3.31 6月20日、雲川欽次。 1、光通寺の行者堂では、盆前に「護摩」をたかれた。 2、行者さんは5月8日に戸開きをし、10月8日戸が閉まる。盆前になると、「光立」(せんだち)は新しく、行者さんにお語りする人達で組まれます。お語りには、女柱との交りを通り、天の川の水で身を浄める。本人はお語り前の前から精進料理。お語り中、家族も精進料理喰べた。私部の雲川欽兵衛さんは昭和7年まで先立をしておらず、昭和8年死じされた。</p>	<p>地蔵は現存する。</p> <p>【文化財愛護推進委員・奥野氏】 講は活動していないようである。</p>
4	私部	行者講	講	<p>【交野町史1】 交野町史(増補改訂版)1分冊 【交野町史2】 交野町史(増補改訂版)2分冊 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石鑑】 交野考古学会(現・交野古文化同好会)会誌</p>	<p>【文化財愛護推進委員・奥野氏】 講は活動していないようである。</p>

民俗文化財調査表2

番号	地区	名称	種別	町史・市史等に記載された内容	令和5年現在
5	私部	愛宕講	講	【聞き取り】（鹿かみ二氏） 近年まで梶原三郎氏と近隣の富田氏が交代で幹事をして講をしていた。くじで毎年の担当者を決め、その者が代表して愛宕神社まで参った。	人が減り、活動がなくなってきたために解散した。その際に梶氏宅で講に関する道具一式を預かっていた。中には道具や書類一式が収納されている。内容は、講の中から愛宕神社に参拝するものを選ぶときに使う札と、金属製の大きな針状の道具、愛宕神社の札、入札を行なったものの氏名・金額等を記した紙片などがある。
6	私部	日堂講	講	【石鏡】13-3頁、S51.3.31 6月20日、栗川教次、安小（交野小学校）西側の二月堂伏拝について、私の家に翁治から嫁入りに来た、ケル（83歳で死亡）さんが皆さんの協力で建てたのがあの伏拝の碑だという。昭和9年の台風で倒れた。その時、先祖の建てられたというので、皆様の協力で再興した。お世語になった方々のご芳名を記して碑の下に埋めた。今でも新しいお祈りが出来て信仰は続いている。	本様は現在も維持されている。 【文化財愛護推進委員・奥野氏】 講は活動していないようである。
7	私部	高野まいり	講	【交野町史2】452頁 文政5年（1822）三月、原田伝兵衛日記（私部）。14日、高野山参り出立。翌籠、笠籠（柏原）。三日市泊。15日、本堂峠、端本峠、吉野川渡し、高野山奥の院、松坊泊。16日、奥院大師様へ参り、七堂伽藍へ参り、大門より矢立へ。大野明神、慈尊院（慈尊院が）、門前泊。17日、舟に乗り根来不願堂御開帳へ参る、若日へ。城下泊。18日、玉律島明神、紀三井寺へ舟にて参り、若日へ戻り、八軒屋、山口、中山泊。19日、山中より、尾崎付舟乗場へ、舟出す、佐野、飯、佐太郎見物、貝塚、願果寺参り、岸和田、大津、曙泊。20日、堺魚市場見物、住吉参り、大阪、私部、魯六ツ下向。	現在はない
8	私部	元日	風習	【市史民俗編】6頁 午前1時から住吉神社の拝殿で「申封じ」の神事がある。お参りした人は松の小枝の束を頂いて帰り、家の神棚に上げておき、春の節置に新しい分を打ちつける。	不明
9	私部	仕事始め	風習	【市史民俗編】9頁 （鍛冶屋で日）朝早くから「打ち始め」といって、ミニの鎌と鍬を造った。この2つを一本の柄にすげて、柱に古い分（鍛冶屋）終戦後なくなつた。	私部の鍛冶屋はなくなっている。
10	私部	例と5	風習	【市史民俗編】9頁 1月3日、全家庭から1人ずつ、住吉神社の申願に集合した。区長が「松の申し合わせ事項」を讀み聞かせ、各自から署名捺印を取った。（中略）全員が紋付き・羽織袴で必ず参加した。（中略）	現在も行われていない。
11	私部	初山	風習	【交野町史2】479頁 1月5日、初山（はつやま）といつて、初めて山の柴を取りに行く。こうれんじ（口山の入り口）の道端に山札を兼ねて、初山にはいる。	現在も一部で行われている
12	私部	砂もち	風習	【市史民俗編】15・80頁 1月14日、村の東方（かた）は住吉神社へ、西方は一本松のお旅所へ砂を1荷運んだ。家の砂もち。12月31日、北川の堤防から砂を運び、また砂は踏まれるように見張った。	現在も住吉神社で行われている
13	私部	大とんとど	風習	【市史民俗編】17頁 市場町の西組に、明治21年からの「諸事勘定帳」が残っており、（中略）1月14日の大とんとど、1月1日ごろの花見、9月16日ごろの道普請、町内軒敷の移り変わりなどが書かれている。	現在も住吉神社で行われている

民俗文化財調査表3

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和5年現在
14	私部	寺の柴し	風習	【市史民俗編】20頁 共有林で1日だけ「寺柴つくくり」といって、1荷ずつ柴をつくり、おのおのの寺（無量光寺、想善寺、光通寺）に持ち込んだ。	令和5年現在
15	私部	節分	風習	【市史民俗編】23頁 家族の一人ひとりの数え年(1つずつ)の加えた数の豆とお賽銭を紙に包んで、住吉神社にお供えする。昔、押殿の神楽に合わせて船の底を踏む神事があった。コトシエトシと昔がしたという。また、「年越しのおおはけ」といって、男が女にとしか、老人が若い人にとしか変装したりしたものだ。	【住吉神社】 節分の日、民間行事に伴って起こった祭典で、除災招福・方良和菓を祈ります。祭典の後、本殿前に組み上げた樽の上から、参拝者へ福豆を撒く「豆まき神事」を行います。私部では氏神様(豆を2つ供え、1つをいよいよいただいて帰る風習)があります。食事に関しては妻御飯にイワシを食べるとか一般的であったようですが、今は妻さき寿司を恵方を向いていただくという、いわれはいいです。
16	私部	初午の日 初午	風習	【交野町史2】482頁 稲荷講の人達で初午の日に集まり、赤飯で「にざり」を作り、夕方から「せんぎよ、野せんぎよ」と叫びながら野原において廻る。 【市史民俗編】 初午(2月初の午の日)、稲荷講の人たちが集まって、当番の家で稲荷祭りをした。(中略)北田勝造氏宅(代官屋敷)の西北角にお稲荷さんが祭つてある。この日にはおだんは入れない騒動の中に入つて、赤飯の「にんぼん(おにざり)」をもちつて嬉しかった。(奥野平次氏)	現在稲荷講による祭りは行われていない。 北田家ではお稲荷さんに随時お供え物をしてお祀りしている。
17	私部	神社祭り 春祭り	祭り	【交野町史2】483頁 4月、私部は3日、倉治は10日、星田は11日、私部は19日よもぎ餅や聖閉子を作つて新しい親類にくくばる。私部は「郷社祭り」と言つて住吉神社の境内でお湯が上る。昔は倉治、郡津、神宮寺、寺、森、私市、傍示、釈尊寺、打油、磯屋、大田、村野、星田、打土、菟子作以上の村々から代表が参拝した。 【市史民俗編】32頁 郡津、倉治、神宮寺、森、寺、傍示、私市、星田、釈尊寺、菟子作、大田、村野、磯屋、打土、打油の村々から代表が住吉神社に参拝した。	現在も4月19日に行われている。周辺地区代表の参拝は行われていないようである。 【住吉神社】 五穀豊穣や無病息災を祈願する祭典です。神社の境内に釜を据え、お湯を炊き、聖子が笹を使いお湯を振りかきける場立神事が行われます。お湯をあびると罪や穢れが除かれるとされています。 私部では春閉子(はまぎの聖閉)を作つて配つたり、親類の人達をお招きしていただきます。
18	私部	苗代の手入れ (頼虫とり)	風習	【市史民俗編】102頁 苗が伸びてくると、小学校の上級生が葉の裏の蛾をとりはらった(大正10年ごろ)	
19	私部	ため池と用水	水利	【市史民俗編】115頁 田植えが終わって日照りが続くと、野井戸から水かえが始まる。さらに、旱夫が続くと溜池の水を出そうということになる。まず、上水(うわみず)(池の上端の水)を出してもらう。次に桶が上がるよ、番木といふ、田ごとに「水かかり」が地主から指示されている順番に水を流すことになる。なお、私部には倉治の鎌かつぎというような制度はなかった。	水利組合により継承されている。
20	私部	野井戸とはねき	水利	【市史民俗編】118頁 野井戸から水を汲み上げるために田に立てた道長が、「はねき」というものだった。野井戸は東の野間(交野市農協交野支店から、住吉神社に通じる府道の東)に多く、特に行殿(交野小学校の北、行殿団地の周辺)に多かった。水路・溝・小川が田より低いところは、水をせき止めて、水車を足で踏み回して田に水を上げた。	野井戸は見られなくなった。はねぎを使っていた名残として、北田家住宅に板木(はねぎ)納屋(農民に貸し出すはねぎを保管していた納屋)がある。

【交野町史1】交野町史(増補改訂版)1分冊 【交野町史2】交野町史(増補改訂版)2分冊
 【ひらひら1】ふるさと交野を歩く ひらひら1 【ひらひら2】ふるさと交野を歩く ひらひら2
 【山の巻】ふるさと交野を歩く 山の巻 【石巻】交野考古学会(現・交野古文化同好会)会誌

民俗文化財調査表5

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
27	私部	秋祭り	祭り	<p>【市史民俗編】65頁 10月16日ごろ、住吉神社。祭が近づくと、各町の道筋に提灯代が立つ。16日の本祭りの午後からは御輿（神輿）（昔住吉21歳の者が担いだ）が出て、渡御の列が西輪のお旅所までを往復する。御輿が戻ってくると、お宮から集會の前まで地車を曳き下ろした（現在は、お宮の境内だけ）。晩になると地車が宮入りすると、祭りはクライマックスを迎える。（中略）私部の地車曳きは、なかなかなか勇壮だが、昔から喧嘩かっつきものだとされている（文久3年、大正6年、昭和27年の渡御行列帳あり）。</p> <p>【ひろい話3】73頁 10月の秋祭りの頃になると、落合の川までリヤカーに腰子を乗せて洗いにいった。（中略）祭りの朝（15日）から、餅取移された品々をお供えする儀式です。各町の辻や道筋に提灯台が立てられ、各家では提灯をつるし氏神様に献灯します。「宵宮（前夜祭）」より東西二台の壇尻が賑やかに曳き廻されます。 「本宮」では渡御神事【召立、御旅所（行宮祭）、町中御神幸】を執り行います。各町が編番により二奉仕いたします。御先払いを先頭にお旅所へと整然と練り歩きます。</p>	<p>例大祭・御幸祭として現在も行われている。</p> <p>【住吉神社】 例大祭とは、神社で毎年行われる祭典のうち最も重要なものであり年に一回、主に祭神や神社に特別由緒のある日に行われます。今では神社の世話役である総代により、概ましく欲り行われます。</p> <p>御幸祭（宵宮・本宮） 美りの秋を迎えられたことへの感謝を神々にご報告、また取移された品々をお供えする儀式です。 各町の辻や道筋に提灯台が立てられ、各家では提灯をつるし氏神様に献灯します。「宵宮（前夜祭）」より東西二台の壇尻が賑やかに曳き廻されます。 「本宮」では渡御神事【召立、御旅所（行宮祭）、町中御神幸】を執り行います。各町が編番により二奉仕いたします。御先払いを先頭にお旅所へと整然と練り歩きます。</p> <p>壇尻について 壇尻が遠行から神社に戻る時と若衆によって壇尻二台が曳き下ろされます。その後、夕刻を過ぎると、総代たちの手で提灯に灯がともり、神と太鼓と若衆の方が一体となつて、壇尻が躍動的に動き出します。昔は男の子しか乗れなかつた壇尻も今では女の子も乗れることから、多くの子どもたちで賑わっています。</p>
28	私部	ふいご祭り	祭り	<p>【市史民俗編】74頁 12月8日、兼治屋の守り神は稲荷大神であり、京都伏見稲荷のお火焚きの日（11月8日）には、兼治屋は仕事を休んでふいごを清めて祝うという。交野では一カ月遅れてこれがあったわけである。</p>	現在も行われていないようである。
29	私部	報恩講さん（ぼんこさん）	法要	<p>【市史民俗編】73頁 12月上旬、無量光寺で二、三、四日の間法会が勤まる。札の辻橋からお寺まで道の両側に夜店が並んで賑わう。</p>	法要として現在も無量光寺で行われている。夜店は現調により出なくなつた。
30	私部	出替わり	風習	<p>【市史民俗編】75頁 12月10日、この日は男衆（おとし）や女衆などの奉公人の出替り日で、雇用契約が改まる。交野は農村だったのので、都市の商家のように半季ではなく、年季奉公が中心であったため、12月が選ばれたのだろう。</p>	現在も行われていない
31	倉治	織刻の弥勒菩薩（第1の石仏）	土着 區御	<p>【山の巻】93頁 南町の宮跡の敷から少し上がるると平地になっていて右に高さ176cmの花崗岩に刻まれた弥勒菩薩が東面して交野山を見守っているように見える。二重光背のおおらかな華飾で（ある）。</p>	「石仏の道」として現存する。

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石巻】 交野町史（現・交野町史）

民俗文化財調査表6

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和5年現在
32	倉治	磨崖仏 (第2の石仏)	土着 信仰	【山の巻】95頁 東に向きを変えようと、大岩の頭が見える。道に背を向けているように見えるが、平川の西側に文明十一年(1479)己亥二月日蓮満歌自と彫られ、左横にキリク(阿弥陀如来)の梵字が彫られている。室町時代の作である。(中略)昔、斎藤彦松氏がここに年号のある岩倉開元寺の一番盛んなころだったのだと申しやういふた。	石仏の道として現存する。
33	倉治	磨崖仏 (迎え仏)	土着 信仰	【山の巻】96頁 道を行くたびに反対側に右上のお顔を見えられた地蔵様がおいでになる。この地蔵様の北の谷を崎が谷と呼んでいるが、崎が谷が崎が谷と変わったのだらう。昔、この谷から骨董が出たと聞いた。ここは中世の墓地でこの地蔵様は迎え仏だらう。	石仏の道として現存する。
34	倉治	町石	土着 信仰	【山の巻】97頁 うづみの池の右側で、昭和32年(1957)ころ町石を拾った。七町と彫ってあった。山の浄土まで七町(約780m)です。現存する。という印だらう。今は交野市教育文化会館の入口東側に保存してある。	現存する。
35	倉治	磨崖仏 (第3の石仏)	土着 信仰	【山の巻】97頁 池の右上に平安定にかまわいた大岩に刻んだ弥陀三尊がある。この石仏は年代は不明である(中略)法界の文字が見えたとき『北河内史蹟史話』に書かれていない。	石仏の道として現存する。
36	倉治	山面の梵字 (三笠荒神)	土着 信仰	【山の巻】102頁 交野山の頂には梵字を彫った岩が3つある。観音岩を中央に南に三笠荒神、北に大日如来がある。三笠荒神とは仏法僧の荒神である。(中略)観音岩の北の彫りかたは出たとはいわれる銅柱には、河州交野山開元寺中興の開基が命じて建立して奉った所は三笠荒神の宮、同拝殿、同鳥居、同額、同大石に荒神の梵字を彫り奉った(中略)とある。(中略)岩の横穴に『寛文六丙午(1686)年三月廿八日法印實傳』とある。	現存する。
37	倉治	源氏の滝	土着 信仰	【山の巻】105頁、106頁 【観音岩】修験者の長が「夢」(梵字)の大梵字を彫りつけている。左下「寛文六丙午年吉洋日 京都諸尊荒神三笠寺法印實傳」とある。	現存する。
38	倉治	吉大荒神詣 願成就の碑	土着 信仰	【山の巻】109頁 滝に面した左側の岩の上に平動明王の梵字があるが、これも観音岩の梵字と同じころのものである。	現存する。
38	倉治	吉大荒神詣 願成就の碑	土着 信仰	【山の巻】111頁 荒春院から西の石段をおりると左にある池が鏡池である。(中略)この池の道をはさんだ右側にある「三笠大荒神詣願成就」の碑は身を清めた修験者たちがこの碑の前で神の声を、仏の声を聞いた場所であらう。	現存する。 荒春院は廃止された。
39	倉治	神宮寺の観音 講	講	【ひろい話2】45頁 1月8日神宮寺の観音講にお参りさしてもらおうと思っただけで、ちよと吉岡竹雄さんが私の家にたちまわって下さった。吉岡さん自身に「私が観音を勤めさせてもらいます。昔は大観音を『おおこ』』と書いておいて皆でおつとめて、(中略)」。『おおこ』の範囲は、藤原、津田、中宮、甲斐田、私部と近在は全部入っていた。(中略)會治や私部でも観音講をお勤めしてはったが、最近なくなつた。現在神宮寺で観音講にはいつて居られる家数は39軒。(中略)廻向文の帳面を見せてもらった。表紙の上の右から二月堂、柳倉、野影、弘法大師と書いてあり、下の廻向文と書いてある。左に吉岡竹雄と書かれ、生期の入った面である。(中略)廻向文の初めを吉岡さんが読んで、続いて昭和10年1月、左に吉岡竹雄と書かれ、生期の入った面である。(中略)廻向文の初めを吉岡さんが読んで、続いて廻向文の初めが読まれた。(中略)最後は弘法大師の項になると、(中略)初観音は11月、次は19日、しまいに観音講には1月、勤める日は講師が決める。(中略)小村であったことが観音講を勤めたのだらう。(中略)近在で観音講のあるのはここが初めてだった。	不明

【交野町史1】 交野町史(増補改訂版)1分冊 【交野町史2】 交野町史(増補改訂版)2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【五編】 交野考古学会(現・交野古文化同好会)会誌

民俗文化財調査表7

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
40	倉治	神宮寺の大峰講	講	【交野町史2】416頁 田中玉光宅には大峯講中の文書が残っている。それによると天保7年(1836)には講中の代参者2人が三百文の旅費をもちて出立している。そして特に心願がある人は「添こま」として古文を托している。その時の講中は百文の月掛をもちていたようである。	不明。
41	倉治	倉治の行者講	講	【交野町史1】454頁 行者参りといった末達(せんだち)が引率する比較的厳格な団体参拝もこの頃(文化・文政時代頃)からはじまる。神宮寺部番では村中にこれが励行された。	不明。
42	倉治	倉治の地藏講	講	【市史民俗編】34頁 4月23日。長福寺では、この日子安地藏をお祭りする。	不明。
43	倉治	二月堂講	講	【散策マップ1】8頁 二月堂燈籠が残る。 二月堂の講中によつて、1837年に建てられたもの。 (正)二月堂 (左)村中安全 (兼)天保八酉歳奉二月	講の活動は不明。 燈籠は現存しており、地区により保全されているようである。
44	倉治	二平川の洗場	風習	【散策マップ1】7頁 倉治の集落を流れる二平川で、昭和50年(1975)頃まで使われた村の洗濯場の一つで残りがよい。石段を降り、川を挟んで北側に洗濯物を敷いた蔵き台の石が5枚並んでいる。	洗場跡が現存する。
45	倉治	倉治の産所	風習	【市史民俗編】281頁 南町の長福寺(子安地藏が祭つてある)には、昔、お堂の北側に薬屋があつてそこが産所だつたとという。江戸時代の終わりまで、京都から葎い方がお越しになつてお産をされた所である。お堂のすぐ東南の木田に「よな池」という地名が残っている。なお、子安地藏は、もと私部の「焼垣内」からお越しになつたと伝えられている。	
46	倉治	倉治のくき沖さん	風習	【市史民俗編】282頁 結子町から春日道を、がらと川を越して少し北に下ると、東から西に流れる小川がある。この川が枚方市と交野市を分けている。この流れに沿つて少し西に行つたところに「くき沖さん」があつた。祠はなかつたが、笹やぶの中にも小さな鳥居があり、そこに葎で作つた馬や赤飯などを供えていた。子ども「くさ」(胎毒、湿疹)が全治するよう祈願する人たちが続いたとという(大正7、8年ごろ)。昔は、くさのように移る病気が野原に捨てに行き、そこにおいてなる神様を受けとつてもらつたものである。今、ぐみの古木が残っているくき沖さんの場所には、小藤英生氏(枚方市春日)によつて立派な祠を造つて頂いている。今、小藤氏の話では、馬の神様がお祭りしてあるとという。馬は草を食べるから湿疹(くさ)が全治するのだから。	
47	倉治	倉治のさいのかみ(薬の神)	風習	【市史民俗編】282頁 神宮寺の村の四隅に石仏がある。これらは「薬の神」といい、この村に悪魔を入れないよう守つていただく神様だといわれている。	

【交野町史1】交野町史(増補改訂版)1分冊 【交野町史2】交野町史(増補改訂版)2分冊
 【ひろい話1】ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】ふるさと交野を歩く ひろい話2
 【山の巻】ふるさと交野を歩く 山の巻 【石巻】交野考古学会(現・交野古文化同好会)会誌

民俗文化財調査表8

番号	地区	名称	種別	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
48	倉治	倉治の氏神 機物神社	神社	<p>【交野町史1】1166頁、222～251頁 祭日19月16二箇。当初は大陸・平島からの帰化人の交野忌寸など、機織と関係。桓武天皇が片群（枚方市）で北斗星を祀ってから、機織の神に。所蔵の十六番神像は、文明8年（1176）に土御門天皇が天下平安を祈った時に寄進されたものと伝わる。</p> <p>織田信長の幕府、宮殿の席願争いに關する文書あり。光秀・秀吉の山崎の戦いで、両者から神社宛ての文書を倉治区で保存。</p> <p>江戸時代、正月十日の御祭（折湯日）には十六番神の画像を掛けた。また、二月十日の春祭、九月十日の秋祭には、参拝者にも画像を拝ませたといい。</p> <p>神主（社掌）が一人になったのは明治維新からで、それまでは15歳以上の童男で、16人、江戸時代は12人であった。神社所蔵「烏帽子名目途帳」16冊。</p> <p>【昭和11年宮座調査】 神職。社掌、加地猶石（機物神社などと同じ）。世襲ではありませぬ。明治維新頃には当番神主組番で行ひしが、明治29年より神職となる。</p> <p>明治元年以前は、神主家16人の内より一年交代に15才の男子を撰で、父親付添ひ奉仕せしに、維新後之を廃し、今に至れり。</p> <p>神社敷人、神社の財産を以て是れり、今は米備費と共不足せり。</p> <p>氏子。大正倉治一団に限り、280戸、古は200戸位。</p> <p>祭礼。三大祭拜に1月10日折湯日とて普通祭、4月10日は春祭とて祭典を行ひます。山の神祭、4月10日の春祭は、交野山祭とて氏神に行ひます。火祭の神事、12月31日午後10時より1月1日午前5時頃迄、社頭に於て大火を焼きます。（之は氏子一般神社へ参拝中の期限です）</p> <p>宮座。昔はありましたが、今日びびて縁立が分りませぬ。</p>	<p>選任の神主をおいて神社・祭礼は現在も続いている。昔に七夕祭が盛大に行われていた。十六番神像は現在大阪市立美術館へ寄託されている。</p>
49	倉治	倉治の神主	神社	<p>【市史民俗編】41頁 『河内省西図会』に「機物神祠、中略神祭は7月7日、祭礼の時童男巻人を選んで祭主とし、甚だ汚穢不浄を禁ずることとを専用とす」とある。昭和51年から七夕祭が復活した。</p> <p>【交野町史1】425頁 たいいてこの村では一軒の勢力家が神主となすのだが、古くから同じような草分けの家々が幾軒もあって、家々の神主になる権利が平等だとしていた村は倉治と寺村だった。寺村は年長者が神主とまきまつていたので争ひは起ころなかつたが、倉治は争うでなかつたのか、天正元年（1573）村内の神主家18軒がととう争ひを止めめた。（中略）織田信長は、その裁きを願つて出た。（中略）こうして倉治宮座の座席と神主の人選は、その定め書き通りのかみくとして江戸時代の末まで続けられることになった。</p>	<p>現在は神職により勤められている。</p>
50	倉治	神宮寺の氏宮	神社	<p>【交野町史2】251頁 神宮寺集善の東南、宇宮山にあった。明治8年（1875）機物神社に合祀された。</p> <p>祭神は、明治5年の記録に孝鳴神尊とあり、本社の外に金毘羅・稲荷・天神・春日・春日・稲荷の諸末社、排殿・土蔵・鳥居があつて、境内東西85軒南北75軒と記されている。</p> <p>（中略）神社址の敷から約100mの下の登山路面から、天平時代創立の開元寺礎石を出して（中略）この神社が古墳時代からの古社でこの付近が当時の住居地なることを物語る（中略）開元寺と当社が関係あるとおもわれることや、神社附近の田石器時代遺跡との関係などは、今後究明すべき点である。</p>	

民俗文化財調査表9

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
51	倉治	元旦	風習	<p>【交野町史2】478頁 機物神社の社前で、大晦日の夜から大晦日を7日間燃やし続ける。その「とんど」のまわりで子供達が砂の掛け合いをする。</p> <p>【市史民俗編】6～7頁 おおつごもり（大晦日）の晩から機物神社の庭で大火を焚き、これを3日まで続ける。（中略）氏子がお宮の庭に近づくと、どこからともなく「砂の雨」が降った。これは子どもたちかしていた「砂かけ」という行事で、昭和23年ころまで続いていた。</p> <p>12月25日の「しまい山」（区有林が半の最後に柴よりのために開放される日）に「こくま」（枯松葉）を用意しておいて、それが雑煮の口火（口つけ柴）になった。</p> <p>昔、生駒の聖天さん（宝山寺）に禱参りをしようとした元氣な人がいた。しかし、岩船を越したままではよかつたが、お松宮（生駒市南田原）で凍えそうになって中止したという。</p>	不明。
52	倉治	初山	風習	<p>【市史民俗編】11頁 1月4日。中路由（なかにじやま）（現関電枚方変電所）と神宮寺山の入口で、村の役人から1戸に2枚充ての山人札をもらって山に入った。1軒で2人、1人で4束の柴を持ち帰れた。</p>	
53	倉治	牛まわし	風習	<p>【交野町史2】478頁 1月3日。神宮寺。牛まわしの日。坊頭と白木山の間にある石黒の周囲を、今年中牛が病気をしないようにと。引き廻すことで、今はやめている。</p> <p>【市史民俗編】9頁 神宮寺。牛まわし。交野山への登り日の登り日の通（坊頭の南）に大きな石がある。これを村では「牛まわし石」と呼んでいる。3日になると、各農家で飼っている農耕用の牛をこっべ連れてきて、（中略）何度も回した。</p>	現在も行われている。
54	倉治	大とんど	風習	<p>【市史民俗編】16頁 1月15日。昔は春町で大とんどをしていたが、最近では、機物神社の「大火」をした跡に太い木で枠組みをし、その中に区内の正月さまの関係のものを入れて、15日の早朝に焼いている。</p> <p>神宮寺。1月15日、お日さまへの献焼だといっている。</p>	
55	倉治	地蔵講	講	<p>【市史民俗編】34頁 4月23日。長福寺では、この日子安地蔵をお祭りする。</p>	長福寺は隆寺とよなっているが、子安地蔵などは現存している。講の活動は不明。
56	倉治	歳除け	風習	<p>【市史民俗編】36頁 5月8日。（花嫁を実家に帰らせた。その）帰り、花嫁の里から「婿つまき」を用意した。それは1本2合ぐらゐもある男根の形をしたもので、これに普通の「つまき」10本を合せて1組とし、親類の敷だけ届けた。</p>	
57	倉治	樋付け休み	風習	<p>【市史民俗編】99頁 （田植文の後の休み。）光明院と善通寺の鐘をついて休日を知らせた。この日はどの家でも餅を焼き、苗取り、田植えを手伝ってもらった家に餅を配った。</p>	

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【五織】 交野考古学会（現・交野古文化同好会）会誌

民俗文化財調査表10

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
58	倉治	ため池と用水	水利	【市史民俗編】111頁 6つの区域に水を流すため、6人の「殿かつぎ」（水田に水を入れる農耕人）がいて、村役のもとで水の支配をした。この殿かつぎより夜は、暇のあることも大切であるが、政治性のあることも大事である。（中略）機物神社の東南にある源氏池は、昔は旗の池と宮田池の二つであったが、中央の堤防が損じてきたので、昭和10年（1935）ごろの改修で一つにして源氏池と改名した。（中略）古い白旗池は神宮寺だけの池であった。明治18年（1885）倉治が白旗池の拡張工事に参加して、土樋・中樋・の二つは神宮寺と倉治で共有することになった。（中略）清水谷（しみなた）の奥に論場という所があるが、ここはよく湧水した。明治30年（1897）、水利権のことで津田村と倉治村が裁判になった一件で、水利権を倉治が持つことになった。	水利は現在地区・水利組合により管理されている。なお、倉治の池のうち、かこ池などが埋め立てられている。
59	倉治	野井戸とほねぎ	水利	【市史民俗編】117頁 野井戸から水を汲み上げるために田に立てた道具が「ほねぎ」というものだった。井尻、納田・中の町内には野井戸が多く、旱魃の年にはほねぎがたくさん立った。	
60	倉治	七夕	祭り	【市史民俗編】41頁 『河内名所図会』に「機物神祠」として、次のような記述がある。「機物神祠、（中略）例祭は七月七日とある。（中略）なお、昭和54年から七夕祭が復活した。拝殿前の鳥居の両側に十六本の小枝の垂ったたき竹（明別）と、二本の二股用の計一九本のき竹が立つ。竹の先には氏神のお札をつけ、七粒の星から町別の役員と子どももよびよって、昔赤黄紫などの短冊に願いごとが書かれ、三時までに吊し終わる。夕方五時から祭典が始まり、一般の方々のお参りは九時ともなるとピークになる。十一時を過ぎると神主と役員が連合橋に出向き、祝詞の最中にお札だけを流す（久保田興士郎氏談）。	現在も盛大に振舞い行われる
61	倉治	十日盆	風習	【市史民俗編】44頁 類聚寺にお参りする人が出しながら「新仏に聞こえるように、しつかり鯛を揚ぐんやで」と言い聞かされた。	不明
62	倉治	盆	風習	【交野町史2】485頁 仏壇のお供え物は、十八さきぎ、ほおつぎ、ようがらし、なみぼ、柿、ぶどう、梨、まくわ、西瓜、とまよ、椎、赤松明を先頭にお供え物と塔婆を持って四辻まで送る。	不明
63	倉治	盆おどり	祭り	【市史民俗編】52頁 15、6日は機物神社、23日（地蔵盆）は塚倉（東）で踊った。	現在も行われている。
64	倉治	七草参り	風習	【市史民俗編】61頁 春と秋の彼岸、七草、七草参りといって、七草の墓とお宮（どこでもいい）に参っておくと達者になるという。	不明
65	倉治	地藏盆	風習	【市史民俗編】54頁 神宮寺、8月23、24日、村の四隅の地藏さん（墓の）に暗くなつてから、檀香を持って、みなちしかばねを供えに行った。	不明
66	倉治	夜なご	風習	【市史民俗編】108頁 放生（9月15日の放生会）から9月30日ごろまで気の合うものが集まつて、男は腰ごしらえ、縄ない、ふご（むつこ）、荷物を入れて運搬するものや草履つくりをした。草履は一日20足、草鞋は10足つくると一人前といわれてきた。女は草つくりをした。夜なごの土樋（あげ、終わり）といって男は、とるまなどて一軒故郷で一軒故郷の婦人が習慣になつていて、夜なごでは、行燈のある明るい方日姑、暗い方日姑に決まっていたので鳥目（夜盲症）の婦人が多かった。	現在も行われていない
67	倉治	祝祭り	祭り	【市史民俗編】63頁 10月15日ごろ、機物神社 参道の提灯の列が美しく並び、鳥居の前の提灯は、たなぼた燈と交野山の風音様に威厳さ現在も行われている。	

民俗文化財調査表11

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
68	倉治	上人さん	風習	<p>【市史民俗編】73頁 12月上旬、「本尊廻有廻住」といって光明院（總通念仏宗）では、長い箱の中に本尊の掛軸を入れて檀家の家々を回られる。この箱は持をつけた元老が担ぎ、付人がデレンランをづく。倉治地区で休憩場に当たった家では「東ね籠」に毎年農作を祈ってもらったり、頭の上に大箱をのせてもらって健康になるといって暮らした。現在は5月14日に日も変わって、本日からお通いになっている。</p> <p>【市史民俗編】112頁 交野で、地主から土地を借りて耕作している小作人は、12月下旬になるとその年の地代（つまり小作料）を米で納めなければならなかった。これが年貢であり、昔は重いものだった。多くは村の郷倉にいったん納めたようである。しかし、近年はしだいに金納で行われるようになっている。倉治では、12月25日までに申納倉（なかのぐぐら）と西郷倉（にしのごぐら）に年貢米を納めた。このとき各戸（かいせ）相場がなる。その相場に従って納めるが、米で納められない家は現金で支払った。年貢納めめるときに治水費も併せて計算した。皆済相場は、地主からの代表3名と、租取り2名ぐぐらいで決めたりしい。</p> <p>【市史民俗編】80頁 瀧氏の庵の北側から美しい砂を持ち帰り、ほしごのように棧を作った。家の庭の丸は、三重にも三重にも書いたり、中に「お正月」と書いたりした。</p>	現在も行われている。
69	倉治	年貢納め	風習	<p>【市史民俗編】81頁 正月さん（年の神）が山から降りてきて、まず門松でお休みになる。そして、門口の注連縄の下をくぐって、恵方（吉方）の方から恵方餅にお宿をお決めになるという。餅の中央に鏡餅、その手前の西側に燈籠、外側に注連縄、ごんな神の場が新住研市氏宅で今も健在である。また、「とくとくとくさんにお供えしてあった、供え餅は一月四月初日から帰って食べると、蛇が来ない」といって皆がもらいに来やほった」（新庄イマヤ氏談）という。</p>	
70	倉治	家の砂もち	風習		
71	倉治	恵方餅	風習		
72	郡津	ねこみや、こみや	土着 信仰	<p>【市史民俗編】277頁 丸山古墳の西側の道を北に進むと、小字「敷の下」に下がる肩の左下に舌状の台地が北に低く延びている。そこを土地の人住「ねこみや、こみや」から西に続く台地を「こみや」と呼んでいる。「ねこみや」はお産をしてしほらぐの間ここで子どもを育てるところ。「こみや」はお産を不浄として嫌っていたところに、そのために特別に設けられた施設（産所）のあったところと伝えられている。このいづれもが、古い出産のしかたの思い出を今に秘めた地名といえる。</p>	現在は井戸跡が不明になっている。
73	郡津	茶屋の清水	土着 信仰	<p>【市史民俗編】280頁 昔、ある日のこと、茶屋にみすばらしい旅の僧が来て水を一杯「ほしい」と所望したが、誰も水をすすめる者がなかつた。ところが上茶屋で水を汲んで差し出す人がいた。その僧は弘法大師で、そのお札に大師は新たに清水の湧き出る場所を教えたという。現在も上茶屋にその時の井戸だといわれるものが残っている。</p>	大峰山講は現存していないようである。 窟意は現存しており、地区の方が保全している。
74	郡津	大峰山講	講	<p>【歴史叢書マップ1】9頁 燈籠の高さ2.1m。1830年建立。 (正)常夜灯 (右)文政十三年 (左)大峰山 (裏)弘法大師 台石に、大峰山六十登・忽他力・世話人講中・発起興整源三郎の文字あり。</p>	

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石巻】 交野考古学会（現・交野古文化同好会）会誌

民俗文化財調査表 13

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
84	郡津	虫送り	風習	【市史民俗編】106頁 染種のもみがらの軸部を利用して松明をつくり、畦の間を廻うようにして虫送りをした。その後、虫送りの代わりには稲代田にランプが吊されるようになり、それが誘蛾灯（電気）に変わり、終戦後は葉品を使うので虫の心配がなくなった。	
85	郡津	いちろくく休み	風習	【市史民俗編】101頁 （交野や枚方で）暑中の草取りの間の休みな日として、このつく日と六のつく日を休みとしていた村は多かった。（中略）郡津では、この日に鐘がなり、下男下女はこの日には休めた。その後、日曜休みに変わってきた。（私市や星田ではなかった。）	
86	郡津	ため池と用水	水利	【市史民俗編】113頁 多くの村ではそれぞれの村の田をうるおすためのため池を保有していたが、私市と郡津とは少し事情が異なっていた。（中略）郡津は、井戸を掘って吸水するより他に方法がなかったという。古くから郡津では、「はね末の手本立ち」といわれ、本には苦勞した。	地区・水利組合により管理されている。郡津地区では、ため池の埋め立てが進んでいる。
87	郡津	野井戸とはねぎ	水利	【市史民俗編】116頁 野井戸から水を汲み上げるために田に立てた道具が、「はねぎ」というものだった。（中略）郡津ではかつては、はねぎが多くて鳥も飛べないほど立ったという。（中略）一枚の田で井戸を3本も用意したところもあったという。	
88	郡津	十日盆	風習	【市史民俗編】44頁 8月10日。新棚（新仏がお帰りになる初盆の家）は、森の須弥寺か、藤阪の観音さん（明尾寺）にお参りして鐘を撞いた。	
89	郡津	岩婆	風習	【市史民俗編】45頁 8月上旬・中旬。明通寺（浄土宗）では、七日塔婆を置く。檀家はこの日、塚に行つた者も里帰りし寺墓に参つた。	
90	郡津	芋名月	風習	【市史民俗編】57頁 9月15日。お供えしたとろろ芋に糸を通して乾かしておき、苗箱が起つたときにこれを「しがわ」（嚼みしめる）と活るといった。	
91	郡津	秋祭り	祭り	【交野町史2】487頁 昔、今池に「御願松」（神楽松）という松があつて、そこまで御輿が出向いた。 【市史民俗編】62頁 10月16日ごろ。郡津神社。今池の南に「御農田」という地名がある。ここでも神さまがお越しになるといふので、明治30年ごろまでは、御輿を担いで出向っていた。（中略）昭和23年までは地車があつて、中島の辻（お宮の北側の十字路）まで曳いていたという。お宮の石段の下に、南尾町・北尾町・西町の大きな提灯の灯がともっていたことを子ども心に覚えており、なつかしい思いがする。	地車は失われているが、秋祭りは現在も実施されている
92	郡津	事始め	風習	【市史民俗編】75頁 12月13日。事というのは正月の行事をさし、その始まりの日として12月13日を事始めといふた。事始めに対する事納めは2月8日である。この日から歳暮が始まる。仲人への礼は、暮は「かたの」椀鯛（ぼうだら）、盆は飛魚と決まっていた。	
93	郡津	節季	風習	【市史民俗編】77頁 12月末。村の店屋で買物をしてもその場で支払いをせず、4月・8月・12月の3回にまとめて支払っていた。この月を節季月といふた。この月末になると長い紙（書出し）に買った品々を記入して配布しておき、月の終わりに集金した。4月・8月・12月に金を用意しておけば、一年の生活ができた。この月だけに集金にくるからだ。	

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石蔵】 交野考古学会（現・交野古文化同好会）会誌

民俗文化財調査表14

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和8年現在
94	郡津	恵方棚	風習	【市史民俗編】81頁 12月31日。年の神を恵方神といい、この神をお祭りする祭屋が恵方棚である。恵方は干支に基づいて決まるため、恵方棚の向きは毎年変わる。 今黒市郎氏や中増次郎氏宅でも、最近（昭和40年頃）まで恵方棚で神さまをお迎えしていたという。	
95	郡津	砂もち	風習	【市史民俗編】79頁 12月31日。砂山が前川から清らかな砂を一荷、郡津神社の南の庭に運んだ。しかた、川砂がきたなくなつたため、今はやらなくなつた。	
96	森	観音講	講	【市史民俗編】25頁 2月3日。森の村ができた記念日だという。5(軒)の観音講の中から年長の1名が世話役にあたる。当日は、警固観音に鏡餅・松明・清酒を供えお祭りした。	不明
97	森	川東神社	寺社	【交野町史2】275頁 西の天山の宮と隣合つて、三ツ又川の東側にまつられている。祭神は高陀和氣命（ほんだわけのみこと）。神社の由緒は伝わっていない。（祭神が天神天皇であり、すなわち八幡神であるのは、当地が石清水八幡宮と関係が深いことが影響しているものと考えられる。）	【古文化園好会】 今はお宮さんの北側に地車庫があるが、もとは現在の集会所の南にあり、この付近から宮入りをしていて、現在は地車庫から曳きだし、天田の宮の正面で献灯し、山と交野に宮入りされている。
98	森	初山	風習	【市史民俗編】11頁 1月1日。全村あけて山の道普請に出かける。山を持たない家は、こく世・枯枝等を持ち帰ってでもいい約束になつてい	
99	森	神とんど	風習	【交野町史2】479頁 1月6日。去年神棚で使つたお供え道具や、お札などを焼く。紙袋に足利を切つて入れ、このとんど。（しもぎや）で焼くと蓄焼にならないという。	不明
100	森	大とんど	風習	【市史民俗編】17頁 1月15日。皇大神宮の掛符軸をかけるお日待ちをした。	現在も行われている。
101	森	正屋（しやうごん）	風習	【市史民俗編】25頁 2月3日。森の村ができた記念日だという。51軒の観音講の中から年長の1名が世話役にあたる。当日は、警固観音に鏡餅・松明・清酒を供えお祭りした。	
102	森	初詣さ	風習	【市史民俗編】88頁 1月上旬から5月初旬。4月上旬から5月3日くらいの間で播く。裏作がなくなつてからは播きつけが早くなった。	

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【右巻】 交野考古学会（現・交野市文化同好会）会誌

民俗文化財調査表15

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
103	森	野井戸とはは ぎ	水相	【市史民俗編】118頁 野井戸から水を汲み上げるために田に立てた道具が、「はねぎ」というものだった。森には村の井戸が3つあり、主た、山の谷には村池・個人池あわせて20以上の池があった。樋付けまでは個人池の使用はできるが、これを完了すると村の瀬頭の支配下にはいる。瀬頭（公平に水の運用を支配する役人）は、昔から権かつたらしい。土びんで樋の株に水を落としていたかなければならないような日照りが、今までに2回（大正13年、昭和14年）あった。樋付け水は上の田から水を入れ始め、樋付け後は下の田から上に水を入れ上げる。下から入れ上げるのは水を逃さない配慮からである。	水相は地区・水相組合により管理される。森新池など池の埋め立てが進んでいる。
104	森	半夏生 (はげしよ う)	風習	【市史民俗編】97頁 7月2日ごろ。この日は半日休みに変わった。一日休むと壺の池の堤が切れるといわれた。この日までに樋付けを完了しないと二朝は減収になるといった。	
105	森	十日盆	風習	【交野町史2】485頁 8月10日。夕方から鐘が鳴って須弥寺はにぎわう。明治35年からお稚児が6人出た。 【市史民俗編】45頁 8月10日。須弥寺で朝早くから鐘が鳴った。この日、御堂と警固観音のある車の山柄に陸橋がかかり、法要が勤まり、お稚児さんも出、夜になると出店が賑わった。	不明。
106	森	地藏盆	風習	【市史民俗編】51頁 8月23日、24日。須弥寺の地藏盆は13歳（中）の子どもが中心になる。かわらけ磨きもこの子どもたちによる。昔は、北組（須弥寺）南組（大道庵）の二組に分かれていたが、大正10年（1921）大道庵の本尊が門真市に遷されたからは須弥寺にまとまっている。	不明。
107	森	放生会	祭り	【市史民俗編】56・59頁 9月15日。森と私市から出た。森は火長神人（かちようじにん）、火打神人（かとうじにん）として勤仕してきた。火長神人は26名（もと32名）で奉仕する。昔は、一週間前から「火を切る」といって、初風呂に入ってから身を浄めて参列した。火長神人は行列の先頭に立ち道を警戒し、これに続いて火打神人が松明を照らした。火打神人の勤仕は江戸時代の中ごろには絶えたとされている。 放生会の古記録・絵図巻「火長神人、浦庄、寛永八年」「浦任火長陣衆三十三人、元文二歳」、向井直一家に「御神幸」（百清木八幡宮）の絵図が二巻ある。	火長神人として現在も森地区の人々が参列している。向井家所蔵絵巻は、市指定文化財になっている。
108	森	秋祭り	祭り	【市史民俗編】66頁 10月16日ごろ。川東神社。今はお宮さんの北側に地車庫があるが、もとは現在の集会所の南にあり、この付近から宮入りをしていったが、現在は地車庫から引き出して天田の宮の正面で献燈し私市と交互に宮入りしている。	現在も行われている。
109	森	年貢納め	風習	【市史民俗編】77頁 12月25日。小政済、村の勘定。	
110	森	火いけ	風習	【市史民俗編】81頁 12月31日。昔から、31日の晩に火鉢の火を元日の朝まで絶やさぬようにと行われていた。これを火理（ひいけ）という。また、この晩に飯をたくさん焚いて食い延ばしをして正月さんを待った。	

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石蔵】 交野考古学会（現・交野昔文化同好会）会誌

町史等編集時に既に行われなくなっていたもの。

民俗文化財調査表17

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
117	私市	王の墓の六体地蔵	土着信仰	【山の巻】42頁 山腹の敷道を行くと山側に六体地蔵がおおいになる。	現存する。
118	私市	王の墓	土着信仰	【山の巻】42頁 さらに進むと、湾曲を描いて突き出た西のところに、亀山上皇と皇后の供養塔、王の墓がある。(中略)真偽のほどはわからないが、このあたりには長聡天皇の御墓所があるともいわれている。また王の墓の裏山が西側の谷で切られるが、裏山の尾根の続きに椿地蔵(坂口の墓地)や、その下に地蔵と一石五輪を中心としている中世の墓がある。	現存する。
119	私市	私市の梵字の碑	土着信仰	【山の巻】47頁 薬師堂(獅子窟寺本堂)から北の石段を上がってまっすぐ行くところと梵字の碑がある。アピラウーケンゲンの碑であり大日如来の真言である。水禄六年(1563)の年号と逆修を願った僧口人の名がある。	現存する。
120	私市	秋葉講	講	【交野町史2】482頁 初の年の日。私市では秋葉講がつとまる。	3軒ほどとなっているが、現在も活動を継続している。(平田政信氏)
121	私市	伊勢講	講	【交野町史2】448頁 伊勢参宮。他の旅と違って農業繁昌を祈り、五穀豊穡を願うのであって、それは年貢を納りなく納めさせることにはびびりてくるのであるから、西国八十八ヶ所巡礼や善光寺詣り等にくらべると、願主も大目に見て、庄屋の届出だけで許可していた。(弘化四年(1845)の私市村の庄屋文書に、男女83人が9日間の予定で出発している。)	規模は縮小しているが、現在も活動を継続している。(平田政信氏)
122	私市	目待講(大待講)	講	【交野町史2】480頁 4月16日。講の人達が「ちゆうせん」で伊勢に参拝した。汽車のなかつた昔は、警船、奈良、三輪、秘井、長谷、名張、伊勢と歩いた。参宮者に「酒迎い」と称して酒食を用意し、参詣者は村はずれまで出迎えた上で担当派手に宴をはる風習もあった。寛政から安政にかけての候約取締や申し合の対象になっていた。(中略)伊勢神宮。寛政元年(1789)交野郡三十九ヶ村申合せ書(中略)「出立逆迎え等打寄り酒興致し仰山に出迎候は、全く伊勢神尊敬にはこれ有る間敷きことに候、向後は致す間敷候」。	不明
123	私市	むねんぎよ	講	【交野町史2】484頁 5月の行事。講の人達が「むねんぎよ」と書いた袋を背って廻る。8月中に雨が降らないと大妻は豊作だという。	不明

【交野町史1】 交野町史(増補改訂版)1分冊 【交野町史2】 交野町史(増補改訂版)2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石蔵】 交野考古学会(現・交野古文化同好会)会誌

民俗文化財調査表19

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
129	私市	初山	風習	【市史民俗編】12頁 村の南、大師坂の上で、朝早く合図のデレン鐘が鳴ると村の人たちはびん棒を持って奥子山に出かけ、持てるだけの柴をこしらえた。当日は（家で）山の神に供えてあった餅を持参して、枯枝の火で焼いて食べた。また、村山の境界改めもした。	不明。
130	私市	神とんど	風習	【市史民俗編】13頁 1月6日。院田（いで）では西念寺の南の三差路というように、各町ともんど場は決まっていた。	現在も行われている。
131	私市	大とんど	風習	【市史民俗編】17頁 1月15日。とんどの組み立て作業が終わると、宿に愛宕さん（愛宕神社）の掛け軸をかけてお日侍をした。	
132	私市	寺の柴し	風習	【市史民俗編】20頁 1月20日など。1月中に各寺（西念寺、雲林寺、松宝寺）の檀家からそれぞれ柴を持ち寄った。もずえ（小枝の柴）、藁、割木、こくまなど、どんな種類でもよかった。	
133	私市	秋葉講	風習	【市史民俗編】27頁 節分が終わって初めての年の日。講の代表20人ほどが私市の当屋に集まり、神主と代表者として秋葉さま（静岡縣秋葉神社）を祭った。昔は、私市の秋葉講のお札を500、600枚も配ったというから、私市はこの付近の世話方であつたらしい。現在も川原、坂口、小路、馬々所に役員がいる。	【市文化財愛護推進委員・平田政信氏】 愛宕・秋葉講は2、3軒ほどになっている。節分の講は熱心でかつては現地に行っていた。
134	私市	伊勢講	風習	【交野町史2】483頁 4月16日。講の人達が「ちゆうせん」で伊勢に参拝した。貴社のなかつた昔は、警船、奈良、三輪、坂井、長谷、名張、伊勢と歩いた。 【市史民俗編】 4月16日。昔は交野の各地区であつたと思われるが、今は私市の川原、坂口、宮の前、院田、馬々所、小路、畑に残っているくらい。もとは3月16日に講を開いていた。	【市文化財愛護推進委員・平田政信氏】 規模は縮小しているが、現在も活動を継続している。他に八幡講などもあった。
135	私市	施餓鬼	風習	【市史民俗編】32頁 4月17日。越智主馬（昔の殿さん）の施餓鬼といって、この日は村中殺生をしなかつた。（明治35年ごろまで）	不明。
136	私市	お大師さん	風習	【市史民俗編】33頁 4月21日。東西の大師堂（大師坂の西）や千手寺でもこの日にお大師さんが祭られる。	不明。
137	私市	おねんぎよ	風習	【交野町史2】484頁 5月の行事。講の人達が「おねんぎよ」と書いた袋を持って廻る。8月中に雨が降らないと大妻は豊作だという。家の庭に長い竹を立ててその先に「だんごつじ」と着松をくくりつけお染と久松にしんぞる。	不明。
138	私市	大蔵い (おおくら い)	風習	【市史民俗編】39頁 6月30日。『雲根志』に「河内国交野郡天河い、岩舟大明神といふ大社あり（中略）六月晦日神事あり」と記されている（平尾兵吾『河内史蹟史』による）。	現在も磐船神社で行われている。

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話2
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石蔵】 交野考古学会（現・交野古文化同好会）会誌

民俗文化財調査表20

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和5年現在
139	私市	たぬ池と用水	水利	【市史民俗編】119頁 ついでしよ（私市橋を西に越して南の妙見宮の下まで）、ひらさ（バイパスの西側、墓地の西側から私市星田森までの大野田右岸）、つぶれ池（菅原橋から私市山手1丁目の南）の地区は水で困った。つぶれ池には、「本分どう」という石に目盛りを刻みこんだものがある。3畝水・7畝水というように、木田の広さによって流す水量を目標でしめられていた。	いずれの地区でも木田は減少している。現在は、加賀田水利組合・土代水利組合・開木水利組合・池田水利組合・梓久水利組合・越木水利組合があり、水利を管理している。
140	私市	放生会	祭り	【市史民俗編】56頁 9月15日、私市と森から出た。私市は御前私神人（みさきはらいにん）・押之の神人（おし之の神人・しんがりがおん）として勤仕してきた。御前私神人は50名（男と30数名）で奉仕した。御前私神人が行列の先払いをいして道を浄めた。行列の最後尾には押之の神人が並んだ。この他、江戸時代代までは津田村（枚方市）でも輿を置籠り神人を出したという。昔は、こうした神人たちが、14日の夕暮れともなると、高野街道を唐櫃を担いで急いで行くのをよく見かけたものだ。	現在も御前私神人として参列している。
141	私市	取樽のお札	風習	【市史民俗編】110頁 鎌納め（掃納りが終わって）、鐘を洗って葉の中に入れ、小豆飯・豆腐・大根などを炊いて、二飯を片木（へぎ）に入れてお供えした。	
142	私市	秋祭り	風習	【交野町史2】487頁 寺・傍系・森・私市の祭は14日であったが、大正3・4年頃から16日に統一された。地車は13日の朝若宮から天田宮に宮入りした。14日の式が終わると引きおろしたが、借書生駒電鉄が出来て天田宮に地車を置くことになった。	現在も行われている。
143	私市	秋祭り	風習	【市史民俗編】67頁 10月16日ころ、天田神社・若宮神社、もともと若宮村（今の私市・森・寺）全体のお宮さんであり、森や寺からも地車が運ばれていたが、今は私市と森が主になっている。かつては若宮に地車庫があった。しかし、昭和4年信濃生駒電鉄（現在の京阪交野線）が開通して後は、天田宮に地車庫が移されたので、最近11年に一度、天田宮から若宮に運んで宮入りをしている。昭和52年、秋祭りなどの祭具を取戻る取返祭が天田宮に完成した。このお札を、ままがま天田宮で奉納するようになった。獅子舞（獅子舞）が、14日は若宮、15日は天田宮。	【交野市文化同好会】 平成14年、私市小学校の高学年の有志を中心に私市文化財保護推進委員会を立ち上げ、中断していた奉納行事の伝統文化を守り、継承・推進して行くため、笛・太鼓・獅子舞・ひまわりとこ踊りを復活して毎年、天田神社と若宮神社の秋祭りに奉納し、家内安全を願って奉納披露している。
143	寺	伏拝の辻	土着 信仰	【山の巻】65～67頁 （寺の）赤山（壁土を採る山だが赤山という）のこがから急坂をくねりて行くのと北の開けた曲りに出る。北より太い松が2本、その西側に大きな石が山道につき出ている。北の路肩の下から順に「細谷伏拝」「愛宕山大権現」「石清水八幡宮」の伏拝がある。	伏拝が現存する。
144	寺	野崎観音と二月堂の伏拝	土着 信仰	【山の巻】69頁 伏拝の辻（田寺村）から2曲りはど土がつた西の傾けたとこに野崎観音と土手の岩の上の二月堂。伏拝がある。野崎さんは婦人病によく効いて下さるし、二月堂は切羽つまった時にお願いする観音さんである。また、この付近、昔は石山あたりは、あちかかな場所である。	伏拝が現存する。
145	寺	能勢妙見の碑	土着 信仰	【山の巻】70頁 （野崎観音と二月堂の伏拝から）東に上がって南に上がり切ったとこに能勢妙見大菩薩の碑が雷電の本社により添碑は現存する。らように立てている。	添碑は現存する。

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひるい話1】 ひるい話 【ひるい話2】 ひるい話 【ひるい話3】 ひるい話 【ひるい話4】 ひるい話
 【山の巻】 山の巻 【石橋】 交野市古書会（現・交野市文化同好会）会誌

民俗文化財調査表21

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
146	寺	かいがけ地蔵	土着 信仰	【山の巻】71頁 歳の北の台地はかいがけ地蔵である。草におおわれた石段を上ると、左に「三界萬霊の碑」その西に、この碑をまもるかのようには山桃の古木が杖を張っている。その根本の南側にある数体の供養の誰の誰のために造ったのかわからず、少しはずれて不動明王が南面しておられる。火災にあつたのが肌が赤い。再び三界萬霊の碑にもどる。そこから北の正面が、かいがけ地蔵、その左のほうに弘法大師堂があつたらしいがその跡だけである。地蔵尊祠堂修繕寄附帳、明治二十五年九月にこの地蔵は僧痛患者を助け、円満幸福を得ることかできると書いてある。今は堂もなく、往時をしのぶかの5かのように瓦の破片があたりには散乱している。 【交野町史2】374頁、【造文化財Ⅱ】13頁 かいがけ(峽崖)の急坂を(中略)傍系に近いところまで登ると(中略)(平田地区)出る。そこに地蔵堂があり、昔は茶屋まであつた。地蔵尊は長2尺余の木像で、堂内には無数の木菩薩を供えている。一名僧痛の地蔵といわれ、僧を悩む人が祈願して、全快すると著を供えるのだという。	石仏は現存する。著が供えられている様子はなく、僧痛地蔵としての祈願は減っているようである。
147	寺	金毘羅さんの伏拝	土着 信仰	【山の巻】79頁 古い大和道と「かいがけ道」(峽崖)と一つになる所が險峻である。その北にあるのが金毘羅大権現の伏拝である。(中略)伏拝、生活の知恵である。ほんとうはお寺に参り、社殿にみかづきをお願いするのが当然だがここからお祈り下さい。ご利益もお参りし、ぬかづいたのと同じようにと伏し拜むその方向の中心が伏拝の碑である。	伏拝は現存する。講の活動は不明。
148	寺	愛宕講	講	【交野町史2】483頁 4月の行事。村が4組に分れ組の代表が愛宕社に4泊で代参する。帰ってから酒宴が催される。 【市史民俗編】34頁 4月23日。講が4組ある。当屋は、当日までに愛宕山(京都嵯峨の愛宕神社)にお参りし、お札と幣(しきみ)を面いって来ておく。	講の活動は不明。
149	寺	地蔵講	講	【石蔵14】2頁 とんと場地蔵。肩から胸にかけて肉付がよくよく、目も鼻もない、北を向いて私部や倉治村から悪霊が寺村にはいって来ない様に守つて下さる石仏である。	石仏は現存する。講の活動は不明。
150	寺	二月堂講	講	【石蔵6】5頁 寺の「杖崖道」の伏拝(ふしよがみ)で折れて道端に倒れていた。「二月堂」を発見。二月堂伏拝 明治十四年 津 龍久右衛門とある。	伏拝は現存する。講の活動は不明。
151	寺	野崎講	講	【市史民俗編】35頁 野崎参り(八日び・ようかび) 5月8日。かいがけ道を少し上ると西のすいた谷に野崎観音の伏拝(ふしおがみ)の碑がある。この伏拝にお願ひすると、女性の下の病氣によお効いてくれはるといって進化した。寺には野崎講があつた。今は、河内鏡講から紙袋が回ってくるので、その袋の中に米やお茶、養錢などをに入れてお参りする。	伏拝は現存する。講の活動は不明。
152	寺	地蔵信仰	土着 信仰	【交野町史2】452頁 昭和36年12月寺村での葬儀の際に墓穴を掘っていると、鎌倉期の作と考えられる土造りの地蔵尊が幾体も出土した。鎌倉時代の頃墓地になぜ地蔵尊をうめたのであろうか、それは室上人の地蔵和讃から類推できる。	尾上遺跡出土遺物として保管されている。

【交野町史1】 交野町史(増補改訂版)1分冊 【交野町史2】 交野町史(増補改訂版)2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石蔵】 交野考古学会(現・交野古文化同好会) 会誌

民俗文化財調査表22

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和5年現在
153	寺	住吉神社	神社	<p>【交野町史2】289頁 元禄5年（1692）の寺村寺社改帳に、神主は「いはいないが（宮座村中百姓ノ内十一人三面神事役等廻り持当番）」とあり、宮座衆が交代で神主を務めていた。これを地元では神守（かみもり）と叫ぶ。また、御子（みこ）もいないが私市より毎月14日に出仕していた。相殿・御座所はないとある。古い由緒に伝わっていない。明治5年（1872）に私市の天田の宮に合祀されたが、同12年には住とも通りとなり村社となった。現在境内には社殿・拜殿・庫・だんじり庫がある。</p>	<p>現存している。神主は、春日神社（枚方市春日神社）の神主が兼任している</p> <p>【古文化同好会】 寺の住吉神社は、それから田んぼの畦道が続く先の田畑野の森に蘆原し、地車小路は神社境内の畷地に建てられ、保有益の森に地車は、江戸末明の頃にやや小坂りの交野型であり影刻は三國志や二十四孝等中国四折で記され、ていて人物の顔が非常に素晴らしい。味のあまじりです。また平成14年には地元有志の手により朝顔露が設置されました。</p> <p>大工は不詳、彫師は池田入兵衛（牛没年下評）だが、昔は、地車が2台あったが、明治18年、池田に流された（地下水が大量に湧き出た）ため、同じ町にあっては地車小路が流され地車は1台となった。</p>
154	寺	宮座	神社	<p>【交野町史1】428頁 倉治・磐船、私部の宮座、その世皇田の十二座、郡津の三座、傍示の一座があつたと聞いたが、それは明治維新からやめてしまった。</p> <p>（中略）（寺村で）現在では正座・山添座・高山座の三座で、その神主（寺では神守という）は座中の年長者がなることになり、その人数は正座より8人、山添座・高山座よりそれぞれ1人または2人が出ている。</p> <p>（中略）神守の役目は、平素からお宮の清掃が第一で、お宮の行事では正月と秋の祭がもっとも重い。またこの村にはうしろの山頂に竜王さんがあって、この社の世話もしなければならぬ。</p> <p>（中略）寺村の宮座も、明治維新政府の法令で一時的に中止となったが、その記録では同25年（1892年）11月から復活されたようで、詳細な社中規則をつくり、第二次世界大戦にも中絶しないで続けられている。</p>	<p>宮座は現在ほとんどなくなっている。</p>
155	寺	仕事始め	風習	<p>【交野町史1】429頁 正月行事のうちにおおみしがある。宮の広場の一方に尺四方の的を置き、神守（村人による神主）がこれを射る。この矢は一筋で、もし標的の近くに当たるとその年は豊年、あま外れると不作だといふ古い習俗がある。4日はふくあがして餅入りの湯、7日は七草の湯を供える。3月の節句は全神守が出仕して、酒・草餅・おこ（米の粉）の供えもの、5月の節句も神守のこしらへ出仕して、酒とちまきを供える。このとき村に大納言（びんないなごん、伊勢の獅子舞）やえびす舞をする人がくると、お宮で舞わせ、ちまきを2くくりやる。9月の祭は年中で、2人派手ぶかで、供え物は秋の野山にできるさるまきまのものが盛られる。曹作どと神前の広場に湯釜がたきり、白衣に赤い粉の市郎が、長い軸をなびかぜながら鈴と青笹を両手にもって、神樂に合わせ舞い納めるのを、三座の座人がすかり見とれといふと、いったいような和やかな場面もあった。</p> <p>【市史民俗編】8頁 1月2日に初めて田に肥料を運ぶことを「持ち初め」といった。たまり（家の門口に小便のぼがあつて、流し水も流れこんでいた）を汲み出して施肥した。</p>	
156	寺	神とんぼ	風習	<p>【市史民俗編】13頁 1月6日、住吉神社の庭で、各家の神棚にお供えしてあったお札、仏壇にお供えしてあったもの、門松や注連縄を焼いた。昔は、私部で復活したとどんとお札のように、竹を組に組み、3段に切ったものに、各家からもちよつた藁をたからしており、盛大なたつたといふ。6日夕方にたつたを、交野では、もちよつた15日のたつたとどんとお札を、6日のたつたを神とんぼとよか子とよか子とよか子と呼ぶが、</p>	<p>不明</p>

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【五巻】 交野町史古書学会（現・交野町文化同好会）会誌

民俗文化財調査表23

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
157	寺	墓掃除	風習	【市史民俗編】14頁 1月7日。この日ほどの地区も墓掃除をする。寺では村の総会があって、1年中の行事の相談をした。	不明。
158	寺	お弓	風習	【市史民俗編】14頁 1月8日。昔、その年の秋の収穫を古うたために、お宮の庭に的を掛け、注連を張って神主が弓の的を射たが、明治になつて止めた。現在、住吉神社の南の道をへだてて少し上がったところに「的場」という田がある。また、府道交野久師山線の西側にも「的場」という地名がある。これらは「いまい」に村があったころの神事の跡だろうか。	不明。
159	寺	大とんぼ	風習	【市史民俗編】17頁 1月15日。とんぼの作業が終わると、数の子と酒が出てお日待ちをした。とんぼ場は3か所あった。	現在も行われている。
160	寺	春祭り	風習	【市史民俗編】 竜王祭。3月18日。竜王山にお参りし、そこに一本ずつの松を移植してきた。かいがけは地蔵の広場で芝居がはられて賑わった。	現在は竜王の神は竜王山上から寺の住吉神社境内に移されており、ここで春祭りをやっている。
161	寺	愛宕講	風習	【交野町史2】483頁 村が4組に分れ組の代表が愛宕社に4泊で代参する。 【市史民俗編】34頁 4月23日。講が4組ある。当屋は、当日までに愛宕山（京都姫崎の愛宕神社）にお参りし、お札と膳（しきみ）を頂いてきておく。	不明。
162	寺	野崎参り	風習	【市史民俗編】35頁 八日び・ようかび。5月8日。かいがけ道を少し上ると西の空いた谷に野崎観音の伏拝の碑がある。この伏拝にお願いすると、女性の下の病氣によお効いてくれはるといつて進行した。寺には野崎講があった。今は、河内鏡講から紙袋が回つて来るので、その袋の中に米やお茶、養錢などを入れてお参りする。	不明。
163	寺	ため池と用水	水利	【市史民俗編】115頁 多くの村では田をうるおするため池を保有していた。寺村では、大池・笠戸（かさんど）池・あたらし池・とんぼ池・新池、これらは大事な用水源であった。	現在も地区・水利組合により池は維持されている。
164	寺	大戦い (おおはら い)	風習	【市史民俗編】38頁 6月30日。11時ごろからおおはらい式が始まる。続いて、一殿（いちんど）（巫女）の舞が奉納され、お湯が上がる。	簡素化して現在も行われている。
165	寺	草とり	風習	【市史民俗編】104頁 6月20日～7月18日ごろ。田鎌でかじる（耕土を掘り起こす）かじり草、三番草、四番草、上げ草の順に行うのは他村と同様である。	
166	寺	虫送り	風習	【市史民俗編】106頁 松明で虫送りをしてきた。虫送りをしたら、狐が境の上で同じように虫送りをしていてたまされたという。	

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻
【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊 【石織】 交野考古学会（現・交野古文文化同好会）会誌

民俗文化財調査表24

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和5年現在
167	寺	半夏生 (はげしよ う)	風習	【市史民俗編】10・96頁 7月2日ごろ。このころは「半夏生の大薬流し」といって、大雨が降るので、下(しも) (大町、池田、刈馬江あたり、今の寝屋川市)から私車や車のような山脈の村に半を頒けにきた。	
168	寺	地藏盆	風習	【市史民俗編】54頁 8月23・24日。かみのけ地蔵は、寺地区の町内が回り持ちで掃除をしてお給仕して回る。昔は講があつてデレンゲン鐘を叩きながらお参りし、米を五合ずつ持ち寄つてこ馳走を作つて食べた。この地区では、お葬式があつたり予どもが一人生まれたりする毎に、地藏さんを一体ずつ造つたといわれている。	
169	寺	放生会	祭り	【市史民俗編】56頁 9月15日。かつて臼谷所神人として奉仕していたそうだが、今は辞退している。	
170	寺	秋祭り	祭り	【市史民俗編】66頁 10月16日ごろ。住吉神社。この宮には、正座・島山座・山添座という3つの草座が健在である。正座は3軒あり、年長者から8人の神主を作つていた。かつて、寺の地車は天田宮まで曳いていったが、明治18年、龍王山にはほらが曳いた(地下水が大量に湧き出た)ため、西辻付近にあった地車庫が流され壊されてしまったので、明治20年ごろからは行かなくなつた。	現在も行われている。
171	寺	下用	風習	【市史民俗編】76頁 12月23日。村の決算をする。	
172	寺	江連縄	風習	【市史民俗編】79頁 12月31日。門徒の家では江連縄はしない。	
173	傍末	切符地藏	土着 信仰	【石蔵7】1頁 5月3日、傍末、歴史散歩(北尾、奥野)。西傍末から車傍末に向う道の北側に「切符地藏」(まがい仏)がある。そばのお百姓が春日さんの地藏さんであつたかたがな石仏であること。	スマイル地藏のことか。
174	傍末	際のお古木	土着 信仰	【石蔵7】1頁 5月3日、歴史散歩(北尾、奥野)。菅原神社の「手洗石」拜見。「い際」の古木は千年も過ぎていゝるだろうが、一際のお古木「中心にお宮が出来たのでしよう。木の神様、雨の神様でしよう。	現存する
175	傍末	きよらの双体 仏	土着 信仰	【山の巻】82頁 小川の東側の畔に若むした石仏は、どなたも見過ごすだろう。突きあたりには双体仏があり、そのうしろに崖脚端の崖身が支えていて、うしろの高い台地は古寺の跡である。この辻を(四略)右に下ると里の小道にでる。その傍末上りつづめたところに、スマイル地藏、末縁四年(1561)、その手前が天正四年の阿弥陀さまである。	現存する
176	傍末	菅原神社	寺社	【交野町史2】268頁 もと紅梅神社、又は大満宮社。菅公を主神とし、傍に戎社があつた。明治3年(1870)の神社調では、石鳥居、拜殿、神楽場、及び石段あり、その土段に神社を設けた因が残つている。(中略)現在当社は、菅原神社の外に、明治維新まで大和道の峠の頂上付近にあつた大王子神社を合祀している。 ここは(中略)古代の上島見路(かみつとみじ)のついでとして、(中略)菅原の熊野信仰が盛んになつて、(中略)街道の諸要神には、熊野遷座所として、大王子(孝養明尊の皇子)を祀つた小祠と、休憩所が幾つも所々設けられた。これがこの宮の最初であつた。	現存しており、春日神社(春日元町)の神主が兼任している。

【交野町史1】 交野町史(増補改訂版)1分冊 【交野町史2】 交野町史(増補改訂版)2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石蔵】 交野考古学会(現・交野市文化同好会)会誌

民俗文化財調査表25

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
177	傍示	宮座	寺社	【交野町史2】268頁 明治維新まで菅原神社の宮座は、奈良県橿原東傍示因宮社の座頭たちから、河内傍示の人々とともに、当社の神前に供え物をして採座を勤め、その後更に東西両傍示の座が揃って、大和傍示因宮社の神前で、採座を勤めるのが古来の式となっていた。	現在も行われている。
178	傍示	厄年	風習	【市史民俗編】28・187頁 3月の午の日、男の40歳は前厄、42歳は本厄、43歳ははね厄という。40歳になると、お礼参りといって、この日に大和の松尾寺（大和郡山田市）にお参りした。	
179	傍示	稲播き	風習	【市史民俗編】87・88頁 4月下旬から5月初旬。山間部の傍示は4月中旬で少し早い。苗代花（三葉つづじ）の咲く4月15日ごろから20日ごろに稲を播く。これは里の方と比べると10日以上も早い。苗代の水田に土盛りをし、そこにつづじを挿してお神酒を供えて田の神に捧げる「水口祭り」という風習も、傍示などに今も残っている。	現在は水口祭りは行われていない。
180	傍示	ため池と用水	水利	【市史民俗編】115頁 多くの村では田をうるおすため池を保有していた。傍示では、やまん坊の一反は湧水がなくて困った。しかし、他は湧水が多く多く便利であった。	現在も地区により水利が管理されている
181	傍示	草とり	風習	【市史民俗編】104頁 6月20日～7月18日ごろ。他村と同様の順ですが、砂土（すなつち、砂と土）が混じったような土地）であるため草とりの苦労はそれほどでもなかったらしい。	
182	傍示	天神祭	祭り	【交野町史2】485頁 7月25日。民神の境内で子供相撲が始まる。お宮に上った養銭は子供たちで分けて貰う。餅・生魚・鶏が御馳走。	現在は行われていない。
183	傍示	心のつり	風習	【市史民俗編】100頁 交野では一般に、田植えの植付け終了のころから石清水八幡宮の放生会（9月15日）までを「夏（げ）の百日」といって、この間は昼寝をした。これを「心のつり」といって、「心のつじまつまり」の辻休みのことである。傍示では、「八朔（9月1日）は昼寝の取上げ」といって、この日でひのつりは終わった。	
184	傍示	秋祭り	祭り	【市史民俗編】67頁 10月16日ごろ。菅原神社、お宮のお守りは5軒しかひくい家々が、一年交代で行う。祭り当日はくくるみ餅を食べた。お宮では庭を掃き清め、神輿の上に青竹を渡して御神燈をとます。	現在は神事のみ行っている。
185	傍示	11月の行事	風習	【交野町史2】488頁 11月10日。さいら飯を食べる。森・寺・傍示、赤飯を食べる。	

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石蔵】 交野考古学会（現・交野古文文化同好会）会誌

民俗文化財調査表26

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
186	傍赤	七人さん	風習	【交野町史2】488頁 12月4日、大阪平野から坊さんが11人来られる。(中略)この日に「亥の子」の代用をする。 【市史民俗編】73頁 12月上旬、平野の大念仏寺から11人来られる。食事と宿は東傍赤(牛駒市高山)と傍赤(交野)で交互にする。	12月6日に御廻りとして現在も行われている。この平野のものが2009年は中止した。
187	傍赤	亥の子	風習	【市史民俗編】74頁 12月4日、本来は取懸後の祭りの日、亥の刻に行われたものだが、今は12月4日に行われている。この日は、亥の子と七人さんが重なっており、七人さん亥の子といった。御馳ぎをして神棚と仏壇に供え、親類にも配った。	現在も行われていない。
188	泉田	明星院	土着信仰	【星田懐古誌下巻】 新宮山の南西の丘陵を明星院と呼んでいた。高さ約一間(約1.8m)、直径約二間(約3.6m)の上礎頭の塚があった。塚は幅5尺(約1.5m)、深さ3尺(約0.9m)ほどの空堀で囲まれ、北側は崖、東西南の三方を平地で囲まれていた。 【山の巻】11頁	
189	泉田	鎌倉臺(延命地藏堂)	土着信仰 石造物	小松神社(妙見さん)の南の首敷の中に、鎌倉臺と呼ばれる180ほどの石造物がある。地藏さんや五輪臺、二百五輪臺などが延命地藏堂をとりまいていて、この臺は小松神社と童光院とが同居している。この臺は1964年(昭和三十九年)八月一日耐火、碑略し、西面している地藏堂の裏に「明治三十三年(1900)八月十八日建造、昭和三十九年(1964)八月一日耐火、碑」を昭和通二丁目39、小松原、1と書いてあった。補の苗木を移植したとき、地藏が出たといいますが、ここが地藏信仰も古い。	土地所有者により、義経地藏寺として地元で周知・信仰されていく。調査の結果、史跡第百零三号に指定、史跡第百零三号に指定されたが、現在は行われていない。
190	泉田	院小松寺の卍形五輪	土着信仰	【山の巻】17頁 小松寺遺跡の東標(交野市)の西にある卍形五輪(総丈93cm、幅57cm)に梵字でアビラウーケン(大日如来のご真言)をささぎみ、下に醫秀と彫ってある。	現存する
191	泉田	妙見宮の拝殿・灯籠	講	【ひろい話】12頁 灯籠の大整備は天保時代である。ここにお参りになった天保時代は御祭社を天御中主尊といい、陰陽家は北辰星といいい、日蓮宗徒は妙見菩薩と仰いでいる。神仏混淆した寺院的色彩が多い妙見宮である。 【ひろい話3】 星田右所記には、妙見宮の参道に並んでいる灯籠の始は天保11年に寄進されたものであること、(中略)星田右所記作成時期を天保11年から明治初年まで大体30年の間と推定できる。	現存する。
192	泉田	浅間(先見)講	講	【市史民俗編】44頁 せんげんさん(8月7日)、浅間堂池(谷現堂池)の内にあるお堂で護摩が焚かれた。お堂に近い池の中に竹を四方に立て縄を張り御幣をつるし、その中5日から8日まで朝昼晩の3回八行をした。その間、講員は三棒無先見大日如来ととお唱えして礼拝した。このせんげんは神仏合体だが少し神さながら勝つておられて、一農家の神さんや日といっている。毎月の命日は16日で、終戦までは講員の家々を回りをちて供養した。	現在も行われている。
193	泉田	野崎講	講	【市史民俗編】36頁 野崎参り(八日び、ようかび)(5月8日)、大変賑やかで、村々からの列が高野道に続いた。家々では、もちつじの花と松の小枝を高い竿の先にさして観音さんに進めた。	不明

【交野町史1】 交野町史(増補改訂版)1分冊 【交野町史2】 交野町史(増補改訂版)2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野をまぐ、ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野をまぐ、ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野をまぐ、山の巻 【百歳】 交野者古学会(現・交野市文化同好会)会誌

民俗文化財調査表27

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
194	星田	無常講	講	【交野町史】2、417頁 星野耕三所蔵文書に「無常講の歌」あり。 【ひろい話】60頁 きつちり来る道。昔どの村にも野辺の送りがあると、墓場までで故人を思い出して貰うところがあった。「星田に葬式がある」と無常講の歌くテンテン鐘に続いて葬列が「こでまり」に来る。その時どこかでやいあのおつさんち、もうこでまりやりと導かれると、ほどなくその人が死んで葬列がこでまりを通ることになる。よお聞いた話や」（浅野健介）	不明
195	星田	柳谷講	講	【ひろい話】57頁 柳谷講（眼の観音さま）は毎月17日がお祭りやった。講の者が数珠繰りをした。数珠の中の大玉にあたると、「柳谷観世音菩薩」といつて押んだ。	不明
196	星田	南燈明講	講	【歴史叢書マップ3】11頁 星田妙見宮の燈明講による道標が基残る。 ・道標1 上垣内四辻（かみかいがいとよつつじ）に建つ道標 （正）左大坂ノ右星田妙見ノ道（右）南燈明講 願主 何某（左）取次 橋 民部（義）弘化三乙巳ノ六月 （正）すぐ大坂ノ左星田妙見ノ道（右）弘化三乙巳ノ八月（左）南燈明講 願主 何某（義）不明 ・道標2 下半分が埋もれてしまっている （正）すぐ大坂ノ左星田妙見ノ道（右）弘化三乙巳ノ六月（左）左大坂道（義）南燈明講 願主何某 ・道標3 （正）すぐ星田妙見道（右）南燈明講 願主何某（左）弘化四乙巳油世口人ノ末八月日 奥野氏（義）不明 ・道標4 交野山（かたのやま）の麓、強地（こわじ）地区の南山根街道沿いに建つ道標 （正）右星田妙見道（右）弘化三乙巳ノ六月（左）左大坂道（義）南燈明講 願主何某	講は現存しない、 道標4基は現存している。
197	星田	交野社	神社	【交野町史1】401頁 現在住吉神社（星田神社本殿）の北に小宮という社があるが、昔はここに古い社が立っていて、それを祭神としたところだが、その形が崩れたので、そのじんをととり、小宮をたてて交野社とすことになった。祭神はもろんこの地方開拓者の祖先饒速日命であり、これが星田最初の民神となる。	星田神社境内に現存する
198	星田	小松神社	上着信仰	【『日本歴史地名体系38大阪府の地名II』「星田村」、平凡社】 星田の南東の山丘上に小松（こまつ）神社があり、星田の妙見山（宮）とよばれる。祭神は天御中主尊である。山頂の二個の岩を二神体とし、社殿はなく拝殿のみで、自然信仰の形態をとどめる。この御神体岩を北斗七星の影向石とみなし、本地垂迹の仏教思想がもちこまれている。（中略）小松神社は、星田神社の境外末社である。	星田妙見宮として知られる。
199	星田	大とんとと	祭り	【市民民俗編】18頁 大とんとと（1月15日）。作業が終わると、お酒を飲んでお日待ちをした。とんどが始まる時、年行事（町の世話役）の家は、氏神の灯明から火を移した。	現在も行われている。
200	星田	寺の柴し	祭り	【市民民俗編】21頁 寺の柴し（1月20日など）。2月の末から3月の初めにかけて、寺山から一荷ずつ柴を寺（慈光寺、光林寺、善林寺、光明寺）に持ち込んだ。寺では大根、小芋、あげのおかずで食事の用意をした。	
201	星田	初の牛の日	祭り	【交野町史2】482頁 高岡山と村の橋筋さんのある山八（山本八三郎宅）の間に赤い旗（橋筋大神と書いた）をたてる。油あげの人った三角のにざりをお供えする。村の人達は夕暮から高岡山にお詣りする。 【市民民俗編】26頁 2月の初の牛の日。高岡山橋筋。現在は橋筋講100件で行っている。以前には講田があり、そこから取れた米を用いていたが、いつのころか講田はなくなるといふ。夕方になると、当屋（一代に一回しか役は回ってこない）から太鼓をたたき旗を持ってお参りし、講の人たちも続いでお参りした。	不明

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話2
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石蔵】 交野考古学会（現・交野古文化同好会）会誌

民俗文化財調査表28

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和5年現在
202	星田	涅槃会	祭り	【市史民俗編】28頁 2月15日。徳安講（毎月一回修養会を開いて、念仏を唱え、講話を開いたり体験を発表した）でお勤めをし、続いて説話がある。	不明
203	星田	心立祭	祭り	【交野町史2】182頁 3月3日。最近に雛人形を飾り・心立餅・あられ酒・時に女子の生まれた家でお祝する。この祝い日雛人形のある町産家だけで、一般には行われぬ。	現在も一部で行われている
204	星田	彼岸	法要	【交野町史2】482頁 3月21日。寺で鐘が鳴り法会がひととまる。村の女や子供が野に出て昔いよも草を摘み彼岸団子を作る。	不明
205	星田	お大師さん	祭り	【市史民俗編】33頁 1月21日。街角や高野街道沿いに、合計12の大師堂がある。これらの大師堂は町内で管理継承しているから、これに個人の信仰している分も加えると相当な数に上ると思われる。今も町内の年行事の人たあが米を集めてつくった餅（餅り飯を砂糖の入れない黄粉にころがしたものを）をつくり、お供えものに添えて供養している。年配の人や小学生のころ（昭和10年から12年ごろ）には、「昼食を家に帰らないで大師堂を駆け回って済ました。つくったおせんべ（煎餅）や餅をもちろて嬉しかった」という。戦前は、下（しも）（産屋川、住道、野崎）からも御孫歌組もお参りに来て、大層賑わったと聞いている。	現在も「1」の大師堂は地区により維持されている
206	星田	鐘忌	祭り	【市史民俗編】34頁 1月25日。慈光寺では、この日を法然上人の命日としてお勤めをしている。	現在も行われている
207	星田	八日び野崎まいり	祭り	【交野町史2】483頁 は「もちもちつじ」の花と松を竿の先にさして高く立てる。 【市史民俗編】36頁 たいていなんにぎやかで、村々からの列が東高野街道に続いた。家々ではちちつじの花と松の小枝を高い竿の先にさして観音さんに進めた。	不明
208	星田	苗代の手入れ（観虫とり）	風習	【市史民俗編】102頁 田植えの始まる一週間ほど前、大勢の小学生の手を借りて観虫（ユウレイガの幼虫）のついでに苗を取った。これは小学校の年中行事になっていて、当時（大正10年ごろ）は農家と小学校が一つになつていて、	
209	星田	田植えの継ぎ	風習	【市史民俗編】94頁 開平（びんきお）は5尺5寸、6尺（1.98m）、6尺2寸の3種類を使用したが、6尺2寸が多く使われた。影い間竿を使つて広い間隔で植えられるのは、「あら田（広い田）」で米とれ」と昔からいわれ、他の在所から星田へ田植えに来た人は、足元を兼計に聞くので、「股がしゃやける」（股が広がって壊れる）といわれた。	
210	星田	半夏生 種付け休み	風習	【交野町史2】483頁 この頃になると種付けも終るし、ばたもちを作つて休む。たごを食べる。花嫁花婿は里に帰る、しかし里では宿らぬ。下（しも）では半夏生の大薮流しと言つて、牛を山側の大薮にあげける。 【市史民俗編】99頁 昔は、7月2日の半夏生までにほとんどの田植えは終わつていたので、この日を種付け休みとした。村が見下ろせる新富田では、朝5時半ごろ村全体に聞こえるよう鐘をたいた。この日に田植えまでの入用（田にするための入夫賃、田植えをする手伝い賃）の支払いをし、また餅を焼いた。花嫁を里に帰らせたが、一泊してはいけぬといわれた。	

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ぶるきと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ぶるきと交野を歩く ひろい話2
 【山の巻】 ぶるきと交野を歩く 山の巻 【石橋】 交野若者学会（現・交野若者文化同好会）会誌

民俗文化財調査表29

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
211	星田	ため池と用水	水利	【市史民俗編】115頁 多くの村では田をうるおすためため池を保有していた。星田村では、大池・みどり池・新池・妙音・妙音（みよやうげ）池・浅間堂池や、今はなくなつたが今池・河尻池などが、用水池として使われていた。木の平自由宗師は、茄子作・高田のさいめん（境日）のあたりで、ここをおおおとという。ここは、木持ちが良いが、池の樋を抜いても7日から10日しないと水が回ってこなかった。したがって、ここでは稲・砂糖きびなどを栽培していた。	現在は地区・水利組合により管理されている。一部の池は埋め立てられた。また「おおおと」の付近は近年開発が及び、栽培はほとんどされていない。
212	星田	野井戸とはねぎ	水利	【市史民俗編】120頁 水番は藩々で10名いたが、よく土地の事情の解つた古参でないときとされていく。また、樋守り、そえ（樋守りの助手）、これらの役も大事であった。なお、私市のお祭師から約100m上手の右岸治いに取水設備をしてあったが、かつて、星田圃が星田圃に沿って左岸で取水しようとしたため問題が起こったことがあった。そのとき、私市の向井種吉と星田の乾一次郎の師匠が小契約を結んだ（昭和6年）。この取り決めが今も生きているという。	
213	星田	虫送り	風習	【市史民俗編】106頁 松明を持って、自分の田の周囲を回つた。虫の中でも浮塵子（うんか）を獲るには、田に水をためて、その上に石油をおとし、稲株を棒でたたいて、ついでに虫を水面におとし殺した。	現在は行われていない。
214	星田	弁天さん	風習	【交野町史2】484頁 7月13日。妙音池の出島で弁天まつり。子供は太鼓をたたき、夜は千枚舟の出店が出る。 【大穴喜代治氏】 妙音池は、もともと八幡宮の放生池として造られたもので、星田では最も古い池であるとされ、その名前も八幡宮の名前の響きからきているといわれている。弁天島の出島は、江戸のはじめに、江戸のはじめに長敷から星田に移住してきた長者の愛娘の婿を治してくれられたお礼に竹生島に似せた小島を造つたのが始まりである。	現在は祭が行われることは少ないようである。 弁天さんの祠は現在も地区の方により保全されている。
215	星田	妙見祭	祭り	【市史民俗編】42頁 7月23日。朝から妙見河原が賑わう。若中は東西に分かれ地車を河原に運び上げた。家々の献燈が終わり、河原に夜店が出るころになると、地車はなんども河原を上下し、祭りは最高潮になった。 【交野町史2】485頁 8月7日。せんげさんと云つて浅間堂の地の西にある修験堂で護摩が焚かれ、行者は水中で行をする。	見降祭として現存している。 当山に七曜星が御降臨したご縁の深いこの7月23日を星降祭（せんげさい）と称して、毎年夏の例祭として盛大に斎行されます。
216	星田	せんげんさん	祭り	【市史民俗編】44頁 8月7日。浅間堂池（全現堂池）の西にあるお東で護摩が焚かれた。お堂に近い池の中に竹を四方に立て繩を張り御幣をつるし、その中で8月5日から8日までの朝昼晩の3回水行をした。その間、講員は交代でお祭りした。8日の晩は千燈の灯が上がつた。先現講は昭和28年、12軒の講員があつた。	現在も祭りが継続している。
217	星田	盆どり	祭り	【市史民俗編】52頁 星田神社の庭に四角の櫓を組み、提灯を吊し、太鼓を中心にご音頭取りの美声に踊りの輪ができた。昔は、河内音頭の会場の交野節を唄っていたが、江州音頭にも加わつて、古い盆踊りの姿は見られなくなつた。 妙見山の南の延命地蔵の境内でも、盆踊りが十二日に始まつて二十三日まで続いたことがある。	現在も行われている。
218	星田	放生会	祭り	【市史民俗編】57頁 9月15日。『郷土史』に次のように記録されている。「春葉講二組男山八幡宮の信徒、毎年初能を献納し、祭典渡御に供養する。」	不明。

民俗文化財調査表31

番号	地区	名称	種別	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
229	全	がいがいるがいら	わらべ唄	【市史民俗編】494頁 田んぼの余り水が中川に音を立てて流れる頃、蛙葉(細い)をくくるくると丸めて、糸で餅の先に吊るし、この歌をうたいながら蛙の鼻先でピョンピョンと上下に動かすと、バックリと食いつく楽しい遊びだった。最近では、宅地化が進み、美しい水が流れて来なくなり、子どもたちもこんな遊びをしなくなかった。	現在は歌われていない。
230	全	七夕さん	わらべ唄	【市史民俗編】494頁 磯物神社をはじめとして、七夕伝説と交野は深いかわりがあるのだが、この唄はあまり知られていない。しかし、昔はうたわれていたこともあるので、ここに取めた。	現在は歌われていない。
231	全	お月さんなんび	わらべ唄	【市史民俗編】495頁 老人たちにはなじみ深い。そんな話を聞かせてくれた。お月さんの子どもの頃は、子守りをしてきたり米搗きをしたたり、野良の手伝いやらで、このごろの子どものように遊んでる子はなかった。それでも、たまたま近所の子どもが三人、四人と集まると「お月さんなんび」の唄がでたな。」	現在は歌われていない。
232	全	亥の子の晩に	わらべ唄	【市史民俗編】496頁 亥の子祭りは、陰曆十月の亥の日を祝うものだが、今は十二月に行う。猪が多産であることから、その年にたくさん収穫させていたんだということや、田の神に感謝する祭である。倉治の子どもたちは、藁の棒の中にいい音がするように葱の芯を入れて、藁束の穂の上を握って家の庭を叩いてまわる。このとき唄が「亥の子唄」である。	現在は歌われていない。
233	全	あずは出かわり	わらべ唄	【市史民俗編】497頁 大正の初めころには、地毛や忙しい商店の店などでは、男衆(おとこし)や女衆(おんなごし)といわれた奉公人が働いていた。当時は、今のようには村で働く場所はなかったし、日ばらしのために仕事み込みで奉公に出されたのであつた。	現在は歌われていない。
234	全	おしとおふた	わらべ唄	【市史民俗編】498頁 おしとおふた(おじやみ)は五つ(またはそれ以上)を使って遊ぶ。中の一つだけは大きくて「親玉」といい、常に放り上げることができ、手の中に取まるものである。親玉の中には、音がするようにこぼれを入れた。親玉を放り上げ、これが落ちるまでに残り全部を拾うのが「おさら」で、この場合はいつも同じ動作になる。「おしとおふた」は一つ、「おふた」は二つ、「おみ」は三つ、「およ」は四つを意味する。親玉を放り上げて、置いてある四つから、順に合わせて一つ一つ拾い、次にまた親玉を放り上げて、これが落ちてくるまで、今拾ったものを置いて別のもの(一つ四つ)を拾う。(ただし、「おみ」のときは、二回目は残る一つを拾うだけになる)。これを繰り返すことで、おしと遊びが行われるのである。	現在は歌われていない。

【交野町史1】 交野町史(増補改訂版)1分冊 【交野町史2】 交野町史(増補改訂版)2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【10の巻】 ふるさと交野を歩く 10の巻 【石橋】 交野考古学会(現・交野町文化同好会)会誌

民俗文化財調査表32

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和5年現在
235	全	げんべのかま たき	わら こ唄	【市史民俗編】499頁 昔から私部は瓦所である。上ノ山（うえんやま）から良質の粘土が出た。また、今もげんべ・またべ・茂上門・庵 隈市の瓦屋がある。 お寺や宮さんの境内に、子どもたちが集まって、こんな遊びをした。石の砂をかき集めて高い所から落とすと、荒い 砂は足元に落ちて、細かい砂（上面砂）が風に飛ばされて少し離れたところに積もった。この上面砂を手の甲のそ で、上げんべのかまたきという唄をうたいながら、トントンと叩いて静かに手を放くと、「げんべ」さんの瓦器）のよ うな形が残った。 明治から大正にかけての子どもは、こんな唄をうたつて土や草と遊んだものだ。 住吉神社（私部）や郡津神社の手洗石にくぼみ跡がある。また、住吉神社（寺）の境内の車にもたきんのかくぼみ石 がある。これらのくぼみは、子どもたちの餅つき遊びの跡であり、先祖の音が聞こえてくるようだ。こんなくぼみ石 は大切に残したい。	現在は歌われていない また、瓦屋も現存しない
236	全	ごんべやちご んべやち	わら こ唄	【市史民俗編】500頁 星田の畑堂（はたんど）には草師寺があり、ここはお堂やまわりの建物のために、南側の東西に延びる道がある。他に は、三方ふきかれて風がこない。この日だまに子どもたちが集まったり、中央に見になる子が入る。そして てこの唄をうたいながら「鬼きめ遊び」を時間の経つのもわすれた。	現在は歌われていない
237	全	なかのなかの	わら こ唄	【市史民俗編】501頁 昔は、西風のよくあたる高台のところでは「楽園い」をつつくた。この楽園いの中や、土間で陽がまわりになったよう なところに子どもたちが集まった。 子どもたちは遊びの中心になる所に土盛りをつくって、その中心に棒を立てた。その側に、小仏になる子が目を閉じ てしやがんだ。そうして、これを閉めた輪になつた子どもたちもちかちかという音が「なかのなかの」の唄である。大きく大 きく元気に伸びまとい願いがたいこめられたらだろ うたい終わつたとき、中の小仏が、後ろに立つた子どもが名前をうたうま、当りば交代する。はずれると棒を立てて土 を一杯とる。こうして、最後に棒を倒したものが罰を受けるといふ遊びである。	現在は歌われていない
238	全	茶よりうた	民謡	【歌歌かたの】154号 五月の茶摘みが始まり、祝いで行われる茶もみ作業のときに歌われたという唄の唄です。	現在は歌われていない
239	全	伊勢音頭	音頭	【市史民俗編】536～538頁 この唄の伝承者である会田藤助氏（87歳）の話によると、星田では、大正1年ごろまでは唄を唄って伊勢参りをし、伊 勢からの帰り道に杖方縫屋浦までは船に乗ったという。杖方へ着くと、自分の家族と、暫来を約束した彼女が出迎え てくれた。このとき大きな声で「お伊勢参り」を唄った。酒が出ては酔い気分になると、この伊勢音頭がうたわれ た。 なお、この唄は、おめでたい酒席には決まらずに決まらずに唄われたという。	現在は歌われていない
240	全	交野節 （河西音頭）	音頭	【市史民俗編】539頁 お盆前後ともなると、神社や町の広場から太鼓や音頭取りの音が聞こえてくる。最近こそ星田音頭や民謡音頭が主 のようになっているが、昭和十五年ごろまでは河内音頭の交野節というものをうたっていた。 星田の会田藤助氏宅には、今も「春の旅立ち道中日記」（大阪から伊勢までの道歩き上・下）や「げんべ」落としての 段、その他の音頭本が残っている。これらを見ると、交野節をうたう唄の土の若い衆の威勢のよい声が聞こえてくる ように、なつかしい思いがする。	星田地区、私市地区などで一部交野節の唄を唄われ る。 会田藤助氏の音頭本の所在等不明
241	私市	私市おどり	音頭	（交野節の項を参照）	【私市文化財保護推進委員・高橋氏】 現在私市の盆踊りでは、星田音頭や河内音頭よりも私市 おどりを踊る。 これは、交野節が私市で唄い継がれたものである。

【交野町史】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史】 交野町史（増補改訂版）2分冊
【ひろい話】 ふるさと交野を歩く、ひろい話 【ひろい話】 ふるさと交野を歩く、ひろい話
【山の巻】 ふるさと交野を歩く、山の巻 【石巻】 交野考古学会（現・交野古文化同研究会）会誌

民俗文化財調査表33

番号	地区	名称	種類	町史・市史等に記載された内容	令和3年現在
242	全	森はよいとこ 等	唱歌	【市史民俗編】540～541頁 「森はよいとこ」、「倉治よいとこ」 「えで節」（えでは良いの意）とでもいうのだろうか。森だけだけでなく、私市・倉治・私部にも同じ節の唄がある。「奥私市の唄は、平田元寺氏（明治十年生まれ）が父から聞いたというから、古いものだろう。倉治については、「奥村座敷」とか「開元寺」の名がでてくるので、大正時代にできたものだろうか。私部の場合、「伝平さぶら」の原田織庵のことが出てくることから、明治三十五年以降の唄と考えてよいだろう。こうしたことを考え合わせると、「森の四季」もこれらの唄の作詞者や唄の節のものとは異なる時期にできたものと思われる。 これらの唄の作詞者や唄の節をつけた作者はわからない。しかし、唄をよく味わってみると、忘れかけていた交野の村々のよさが浮かんでくるようだ。	現在は歌われていない
243	全	鉄道唱歌	唱歌	【市史民俗編】544～546頁 「関西参宮線唱歌」、「地理歴史鉄道唱歌第2集 関西鉄道」 かつて神宮寺の山麓は、春ともなるとピンク色美しく広がっていた。そのころどうも変化したのが、これらの鉄道唱歌である。しかし、昭和二十五年、六年ごろから作物転換が進み、以後はぶどう畑に変わった。これらの大正十年ごろ、小型の京阪バスが枚方から源氏の滝に通っていた。人力車に乗って滝を求めてやってくる客も多かった。当時は源氏の滝はこうしようした人たちが盛況をさわめていたたのである。また、秋ともなると、滝道と開元寺の道との三叉路の辻の見返り組葉が、ことのほが美しかった。今も滝池付近の紅葉は美しく、行楽客で賑わう。	現在は歌われていない
244	全	島羽・伏見の唄	唱歌	【市史民俗編】547～548頁 この唄は、明治元年（1868）島羽・伏見の戦をうたった歌え唄であり、故佐古田三右衛門氏（倉治）より歌われた。この人は枚方市走谷の生まれだから、京街道を中心とする枚方方面でうたわれていたものだろう。	現在は歌われていない

【交野町史1】 交野町史（増補改訂版）1分冊 【交野町史2】 交野町史（増補改訂版）2分冊
 【ひろい話1】 ふるさと交野を歩く ひろい話 【ひろい話2】 ふるさと交野を歩く ひろい話
 【山の巻】 ふるさと交野を歩く 山の巻 【石巻】 交野考古学会（現・交野古文化同好会）会誌

今後の予定 (2021.7.29日現在)

年度	項目	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020 (令和2年)	協議会 審査委員会				協議会第1回開催 ・委嘱と諮問 ・地域計画説明								
	社会教育 課				文化財審査委員会 ・委嘱 ・地域計画説明								
	定例教育 委員会				事前把握・現地調査(「交野市史」 等既存の文化財)「交野の文化財」 等既存の出版物等により現在把握している交野市の文化財群をデータベース化し、その現況を調査								
	総合教育 会議 議会				地域計画協議会委員 ・承認								
説明会等					区長会説明 ・町並み・民俗調査								
2021 (令和3年)	協議会 審査委員会	協議会R3第1回開催 ・文化財群実態調査 の説明 ・計画骨子たたき案 について			7/29協議会R3第2回 ・アンケート結果 ・計画の方向性(骨 子たたき案の修正) について	9/9協議会R3第3回互 定 ・計画骨子案整							
	社会教育 課				市民・団体アンケート調査(委託) 各種文化財調査(委託)	計画書及び協議会・定例教育委員会・総合教育会議・議会資料等作成(委託) 交野の文化財Ⅱの展示及び説明(古墳・古代寺院・七夕・巨石・戦国・木綿など)							
	定例教育 委員会				7/20文化庁協議 ・事業提案(各種団 体)								
	総合教育 会議 議会				計画スケジュール 第1回所管業務調査 ・スケジュール等の確認								
説明会等													
2022 (令和4年)	協議会												
	社会教育 課												
	定例教育 委員会												
	総合教育 会議 議会												
説明会等													

計画書配布

地域計画印刷・製本

文化庁認定申請

地域計画周知活動(講演会や現地説明会など)

文化庁調査官への照会・関係省庁との協議

計画承認

